

☑全国の書店でご注文いただけます。お急ぎの場合は直接ご連絡ください／価格は税別です／本の詳しい情報は Web サイトをごらんください。



# 文学通信

## ★刊行図書のご案内★

いままで刊行した111冊の本を紹介します

2023.05



### ★デザイン★

<https://bungaku-report.com/about/design.html>

### ★インターネット中継・動画制作★

<https://bungaku-report.com/about/livestudio.html>

お気軽にお問い合わせ下さい

[info@bungaku-report.com](mailto:info@bungaku-report.com)

〒114-0001 東京都北区東十条1-18-1 1-101

電話 03-5939-9027 FAX 03-5939-9094

[info@bungaku-report.com](mailto:info@bungaku-report.com)

<https://bungaku-report.com/>

# 詩のかたち・詩のころ —中世日本漢文学研究—【補訂版】

堀川貴司

ISBN978-4-86766-011-9 C0095

A5判・上製・448頁

定価：本体10,000円（税別）

2023  
刊行

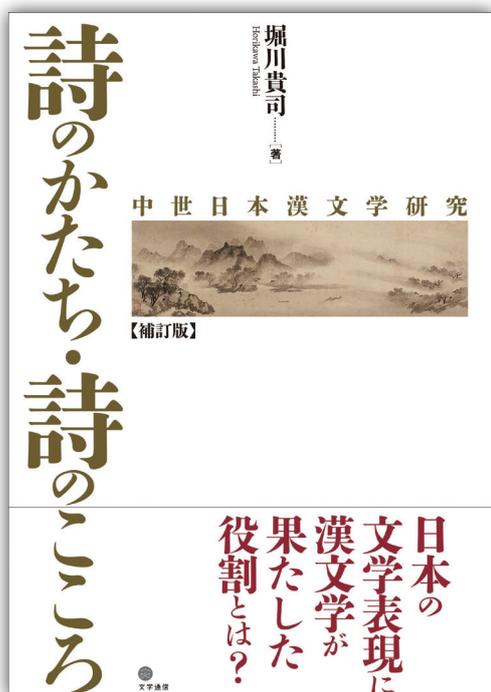
日本の文学表現に漢文学が果たした役割とは。「院政期から鎌倉時代にかけて、日本漢詩を特徴づけるのは、句題詩と無題詩という二つの詠法である——」という一文ではじまる、日本中世漢文学研究における名著の補訂版。

そのときどきに中国文学の新たな潮流を受け止めた日本の漢文学は、それらを血肉として、より広いジャンルへその栄養を供給していく。その営為こそが、それぞれの時代の日本文学の「全き姿」である。本書は、日本の文学表現の源流を丁寧に掘り起こしていくものである。

本書は2006年に若草書房より刊行された『詩のかたち・詩のころ—中世日本漢文学研究—』の補訂版です。

【句題詩に代表される平安漢文学の成果が、中世文学の豊かな表現の源泉となったように、禅林の文学もまた、次代の文学、仮名草子・俳諧に始まる近世文学の中に入り込んでいく。これには、中世にはなかった要素、すなわち商業出版の発達も大きく貢献している（本書第一八章・第一九章参照）。

このようにそのときどきに中国文学の新たな潮流を受け止めた日本の漢文学は、それをよく咀嚼し（初学書を中心とした読解・注釈）、自分たちの血肉として（詩文の創作）、より広いジャンルへとその栄養を供給していった。それらの営為を含めた文学活動の総体こそが、それぞれの時代の日本文学の全き姿なのである（本書第一章・第一九章参照）。】……「総説」より



## 【目次】

### 総説 中世漢文学概観——詩を中心に——

- 一 句題詩をめぐって
- 二 鎌倉時代の漢文学
- 三 禅林の文学  
(一) 鎌倉から室町へ  
(二) 日本化の時代  
(三) 文化の広がり  
(四) 二つの視点から——その一、『三体詩』をめぐって  
(五) 二つの視点から——その二、一休という問題  
(六) 禅林という場
- 四 漢文学の役割

### 第一部 院政期・鎌倉時代

- 第一章 句題詩の詠法と場
- 第二章 『本朝無題詩』試論——句題詩との対比から——
- 第三章 『元久詩歌合』について——「詩」の側から——
- 第四章 新古今時代の漢文学——真名序を中心に——
- 第五章 『真俗擲金記』小論
- 第六章 詩懐紙通観

### 第二部 南北朝・室町時代

- 第七章 瀟湘八景詩について
- 第八章 足利直義——政治・信仰・文学——
- 第九章 「等持院屏風賛」について
- 第一〇章 「大慈八景詩歌」について
- 第一一章 絶海中津小論
- 第一二章 『狂雲集』小論
- 第一三章 『自戒集』試論——詩と説話のあいだ——
- 第一四章 『三体詩』注釈の世界
- 第一五章 『新選集』『新編集』『錦繡段』
- 第一六章 中世禅林における白居易の受容
- 第一七章 『倒痴集』試論
- 第一八章 こぼれ咲きの花々——禅林ゆかりの小作品群——
- 第一九章 中世から近世へ——漢籍・漢詩文をめぐって——

再刊に際しての補足（初版訂正およびその後の研究状況について）

あとがき  
補訂版あとがき

初出一覧  
索引

# 西鶴奇談研究

梁誠允

ISBN978-4-86766-012-6 C0095

A5判・上製・272頁

定価：本体 5,800円（税別）

2023  
刊行

われわれは西鶴奇談がもたらす感動をどのように説明できるだろうか。

単なる典拠論、素材論を超えて、現代のわたしたちが見失ってしまった、あるいは忘れてしまった様々な表現の層位（可能性）をさぐりながら、西鶴を探る。西鶴は人情世態を描くための表現を新たに獲得しようと、どれほど奮闘していたのか。言葉が織りなす運動に注目して、西鶴奇談の一話一話を詳細に考察する書。

【西鶴奇談では、類似の題材を扱う場合でも、二番煎じのような方法は殆ど用いられていない。問うべきなのは、一話一話における創作の有り方である。すなわち一話ごとに西鶴がどのような問題領域（話題）を開き、そこに同時代の人情世態に関わる問いかけがいかにか生成しているか。題材の比重が大きい西鶴の奇談において、その現在の意味はどのように見出されているのか。また、西鶴奇談の中には〈同時代の人情世態〉が素直にあらわれてはいない。作品の背後に隠されている当時の現実と、作品として形象化された虚構の世界とはどのように相関しているのか。これらを明らかにすることにより、後代の読者である我々も、創作された奇談世界のどこがどう奇異であり、西鶴は当時の読者に何を感得させようとしたのかを理解できるようになるだろう。

本書では、言葉が織りなす運動に注目して西鶴奇談の一話一話を詳細に考察し、作品の中の不可思議で説明できないものを可能なかぎり明確に説明することで、西鶴奇談の備えている表現の挑発力を再び活動させることをめざす。】…「序章」より

## 【目次】

### 序章

- 一 本書の問題意識
- 二 本書の構成と内容

### 凡例

### 第一章 伝承の想像力

#### 第一節 『西鶴名残の友』巻三之七「人にすぐれての早道」と狐飛脚伝承

- 一 はじめに
- 二 狐飛脚伝承と志一稻荷伝説
- 三 与次郎狐伝説
- 四 報われない忠義譚・異類婚姻譚
- 五 狐による慰撫
- 六 おわりに

#### 第二節 フィクションとしての西鶴説話—『懐硯』巻五之二「明て悔しき養子が銀管」の虚偽—

- 一 はじめに
- 二 『棠陰比事』『道讓詐囚』の詐術
- 三 民話・霊験譚の発想とねじれ
- 四 装われる報道説話
- 五 おわりに

#### 第三節 『懐硯』巻三之三「気色の森の倒石塔」と「猫と南瓜」—民話の想像力を糸口に—

- 一 はじめに
- 二 解釈の入り口
- 三 もう一つの「猫と南瓜」

- 四 男の怨念と俳諧における〈猫の妻恋〉
- 五 奥女中という設定
- 六 おわりに

### 第二章 様式に関する試論

#### 第一節 方法としての〈なぞ問答〉—『西鶴諸国はなし』巻一之五「不思議のあし音」の遊戯—

- 一 はじめに
- 二 奇人逸話からなぞ解きゲームへ
- 三 仕組まれたなぞ遊び
- 四 「おかた米屋」の造形
- 五 なぞ問答型の変容
- 六 おわりに

#### 【余説】「北国屋」について

#### 第二節 〈欺瞞〉と〈機智〉の継承と創造—『懐硯』巻五之三「居合もだますに手なし」の手法—

- 一 はじめに
- 二 素材論の射程再考
- 三 〈死体の面皮を剥ぐ〉という行為
- 四 織り込まれる法秩序の文脈
- 五 おわりに

#### 第三節 〈業〉の深さを描く—『万の文反古』巻三之三「代筆は浮世の闇」の因果—

- 一 はじめに
- 二 解釈をめぐる
- 三 奇異なる信念と〈二世安楽〉説
- 四 「我命の我まゝに死れざる」因果
- 五 〈業〉の深さ・貪瞋痴の前景化
- 六 おわりに

### 第三章 西鶴奇談の位相

#### 第一節 『棠陰比事』『彦超虚盗 道讓詐囚』の受容をめぐる—笑話から西鶴を経由して秋成に及ぶ—

- 一 はじめに
- 二 機智話の素材源
- 三 「小判も石となる思案箱」の智慧
- 四 『風流宇治頼政』と「明て悔しき養子が銀管」
- 五 誑かされる妾
- 六 おわりに

#### 第二節 『鎌倉比事』『因果の廻会常陸帯』と『諸国因果物語』『二十二年を経て妻敵を打し事』の構想—『大岡政談』『小間物屋彦兵衛伝』の成立前史—

- 一 はじめに
- 二 「道讓詐囚」と『鎌倉比事』『因果の廻会常陸帯』
- 三 『諸国因果物語』『二十二年を経て妻敵を打し事』の構想
- 四 『享保世説』に見出される話の型
- 五 おわりに

#### 第三節 『大岡政談』『小間物屋彦兵衛伝』の成立

- 一 はじめに
- 二 『大岡美談録』『大岡美談』の先後関係
- 三 〈皮剥きの獄門〉
- 四 駕籠昇きと孝行息子
- 五 『彦兵衛伝』の成立まで
- 六 おわりに

あとがき 初出一覧 索引



# 東アジアの都市とジェンダー

過去から問い直す

小林ふみ子・染谷智幸編

ISBN978-4-86766-005-8 C0095

A5判・並製・456頁

定価：本体2,800円（税別）

2023  
刊行

都市と地方との格差が国を超えて問題化する今日、都市とは人間にとってどのような場なのか。本書は、近世から近代初期の江戸東京に視点をおき、同時代の東アジアの諸都市と比較しながら、その特徴を探るとともに、あらためて人間にとっての都市という存在の意義を問い直す。中国文明の大きな影響のもとにあって、歴史的に一国の政治経済の中心として建設された点で江戸東京と共通する朝鮮の漢陽との比較をはじめとして、東アジアのさまざまな都市を視野に問題を考える。全体を、第1部「都市生活を較べる」第2部「女性の描く都市・都市のなかの女性」第3部「日中韓の女性たち」にわけ、各国の都市文化から立ち現れてくるものは何か。ジェンダー・性・身分・階層・職分にも目を配りながら編む。付録として、漢陽の文人柳得恭の記した歳時記『京都雑誌』をもとにした『朝鮮の雑誌—18～19世紀ソウル両班の趣向』から4編を掲載。関連年表、東アジアの女性文芸を知るためのブックガイドも完備。近代以降、今日まで続く、政治を含めた日本社会の問題を捉えることも視野に入れた、最新の比較都市文化論。

執筆は、市川寛明・岩田和子・大木 康・金谷匡高・金 美眞・呉 翠華・高 永爛・小林ふみ子・鄭 敬珍・仙石知子・染谷智幸・高村雅彦・福 寛美・藤木直実・田中優子・土田牧子・山田恭子。

【目次】

まえがき——東アジア近世・近代都市はいかに経験されたか（小林ふみ子）

## 第1部 都市生活を較べる

01 十八世紀の漢陽と江戸における芸能—「芸能の場」という視座からの考察—（土田牧子）／02 十八～十九世紀の漢陽の市場、その中を覗いてみる（金 美眞）／03 近代における市場空間の表と裏—神田多町市場を例として—（金谷匡高）／04 園芸文化で比較する漢陽と江戸（市川寛明）／05 江戸・漢陽にみる花見と遊山（鄭 敬珍）／06 東アジア都市の行楽地とその場所性（高村雅彦）

## 第2部 女性の描く都市・都市のなかの女性

07 『おもろさうし』の間得大君—間得大君と首里城、地方—（福寛美）／08 朝鮮後期女性漢詩人の特徴とその周辺環境（山田恭子）／09 明清小説のなかの女性（仙石知子）／10 韓国古典小説の漢陽と女性の愛欲（高 永爛）／11 女性戯作者の描く都市江戸—「婦人亀遊」の黄表紙から—（小林ふみ子）／12 訴えに行く女性たち—清末唱本の一側面—（岩田和子）／13 百貨店文化と女性作家—与謝野晶子、森しげの『三越』掲載作品を中心に—（藤木直実）／14 清末民国初期台湾女性の都市—『楊水心日記』にみる—（呉 翠華）

## 第3部 日中韓の女性たち

15 都市に生きた多様な女性たち（田中優子）／16 中国明清時代の都市と女性をめぐる覚え書き（大木 康）／17 廳上の野談、廳下の淫談—朝鮮時代の女性たちの深奥にせまる—（染谷智幸）

付録『朝鮮の雑誌—18～19世紀ソウル両班の趣向』翻訳

翻訳：染谷智幸・金美眞・鄭敬珍

年表 ブックガイド（中国・韓国・日本）

# 東アジアにおける笑話

佐伯孝弘・荒尾禎秀・島田大助・川上陽介・王 國良・崔 溶澈

ISBN978-4-86766-009-6 C0090

A5判・並製・312頁

定価：本体3,200円（税別）

2023  
刊行

新たな進展をもたらす、最新の「笑話」研究。中国白話文学と日本近世文学の比較研究を

専門とする川上陽介が代表となっははじめた共同研究の成果。佐伯孝弘〈浮世草子〉、荒尾禎秀〈日本語学・書誌学〉、島田大助〈噺本〉、台湾の王國良（中国俗文学・敦煌学・中国文献学・中国古典小説・東アジア漢文学）、韓国の崔溶澈（中国小説）らにより、「東アジアにおける笑話」の諸相を、さまざまな角度から検討し直す。

翻訳は、閻小妹（読本、中国古典小説）、申英蘭（日本近代文学・日中比較文学〈近現代〉・日中韓比較文化）、全怡姪（日本近世文学）。

【目次】

## はじめに（川上陽介）

— 笑話をさまざまな角度から検討し直す／二 本書の構成／三 文学研究を志す学生のために

## 第1章

### 浮世草子『籠耳』考（佐伯孝弘）

— はじめに／二 『醒睡笑』の利用／三 作品全体の笑話性  
四 『宇治拾遺物語』の利用／五 その他の要素——多様性——  
六 おわりに

## 第2章

### 『訳解笑林広記』の漢字字体（荒尾禎秀）

— はじめに／二 調査の資料と方法／三 調査結果と考察／四 『訳解笑林広記』にみる変字法の可能性／五 『訳解笑林広記』の字体の特徴／六 まとめにかえて

## 第3章

### 日本の笑話本と東アジアの笑話本 -- 絵の用い方に注目して --（島田大助）

— はじめに／二 東アジアの笑話本／三 日本笑話と絵／四 笑話の絵本化による文字数の変化／五 草双紙仕立て笑話本の問題／六まとめ

## 第4章

### 『訳解笑林広記』全注釈（九）（川上陽介）

111 拾蟻（蟻を掬い上げる）～120 過橋（橋を渡っているときにクシャミ）

## 第5章

### 中国・朝鮮・日本における漢文笑話の発展・伝播とその比較（王國良）（共訳：閻小妹・申英蘭）

— はじめに／二 朝鮮における漢文笑話の伝播について／三 日本における漢文笑話の伝播について／四 中国・朝鮮・日本における漢文笑話の具体例（1）自慢や見栄（2）虚偽と詐欺（3）妄想・愚昧（4）間違い（5）教養のない、無知な人間を嘲笑う話（6）欲張りすぎて罰が当たった話（7）食欲と色欲（8）物忘れと居眠り／五 結び

## 第6章

### 朝鮮時代の漢文笑話本と性笑話の特徴（崔 溶澈）（訳：全怡姪）

— はじめに／二 朝鮮時代の漢文笑話集／三 漢文笑話集の序・跋文／四 韓国漢文性笑話の特徴／五 漢文性笑話の中韓比較／六 結語

# 土偶を読むを読む

望月昭秀編

ISBN978-4-86766-006-5 C0021  
四六判・上製・432頁  
定価：本体 2,000円（税別）

2023  
刊行

「土偶の正体」は果たして本当に解き明かされたのか？  
竹倉史人『土偶を読む』（晶文社）を大検証！  
考古学の実証研究とイコノロジー研究を用いて、土偶は「植物」の姿をかたどった植物像という説を打ち出した本書は、NHKの朝の番組で大きく取り上げられ、養老孟司ほか、各界の著名人たちから絶賛の声が次々にあがり、ついに学術書を対象にした第43回サントリー学芸賞をも受賞。  
『専門家』という鎧をまとった人々のいうことは時にあてにならず、『これは〇〇学ではない』と批判する"研究者"ほど、その『〇〇学』さえ怪しいのが相場である。『専門知』への挑戦も、本書の問題提起の中核をなしている（佐伯順子）と評された。  
しかし、このような世間一般の評価と対照的に、『土偶を読む』は考古学界ではほとんど評価されていない。それは何故なのか。その理由と、『土偶を読む』で主張される「土偶の正体」、それに至る論証をていねいに検証する。  
考古学の研究者たちは、今、何を研究し、何がわかって、何がわからないのか。専門家の役割とは一体なんなのか、専門知とはどこにあるのか。『土偶を読む』を検証・批判することで、さまざまな問題が見えてくる。本書は、縄文研究の現在位置を俯瞰し、土偶を読み、縄文時代を読む書でもある。  
執筆は、望月昭秀、金子昭彦、小久保拓也、佐々木由香、菅豊、白鳥兄弟、松井実、山科哲、山田康弘、吉田泰幸。  
【『土偶を読む』の検証は、たとえば雪かきに近い作業だ。本書を読み終える頃には少しだけその道が歩きやすくなっていることを願う。雪かきは重労働だ。しかし誰かがやらねばならない。（望月昭秀）... はじめにより】

## 【目次】

### はじめに

はたして本当に土偶の正体は解明されたのか？

### 検証 土偶を読む（望月昭秀）

- 1 カックウ（中空土偶）、合掌土偶——クリ
- 2 ハート形土偶——オニグルミ
- 3 山形土偶、ミミズク土偶、余山貝塚土偶——貝
- 4 縄文のビーナス——トチノキ
- 5 結髪土偶、刺突文土偶——イネ、ヒエ
- 6 遮光器土偶——サトイモ
- 7 土偶を読む図鑑

### 検証まとめ

### 「土偶とは何か？」の研究史（白鳥兄弟）

- 1 本稿の目的と内容
- 1-1 土偶研究の「通説」
- 1-2 本稿の内容
- 2-1 第1期 明治期◎ 1868~1912年
- 2-2 第2期 大正~昭和戦中期◎ 1912~1945年
- 2-3 第3期 昭和戦後期◎ 1946~1988年
- 2-4 第4期 平成期以降◎ 1989~2020年
- 3 まとめ

### 〈インタビュー〉今、縄文研究は？（山田康弘）

発想の面白さはある  
批判で自由な議論はできなくなる？  
民族誌と考古学との接続の問題  
理化学で前進している考古学研究  
人骨と土器でわかること  
男性の世界観と女性の世界観  
似ているということ  
つくりあげられた考古学者のイメージ  
考古学の担い手たち  
専門家の役割とは？疲れてしまう取材  
土偶研究の次のステップは

物語の語り手を絶対に信用するな。だが私たちは信用してしまう（松井実）

土偶は変化する。——合掌・「中空」土偶→遮光器土偶→結髪 / 刺突文土偶の型式編年（金子昭彦）

植物と土偶を巡る考古対談（佐々木由香・小久保拓也・山科哲）

考古学会は閉鎖的で強権的？  
日本考古学会は男性社会で、土偶は男性のおもちゃ？  
土偶については誰も答えられない、何もわかっていない、そして土偶の専門家はいない？  
専門知について  
土偶を読むをどう読む？  
データの恣意性—クルミ、トチノキ、クリ、サトイモの痕跡をデータから考える  
イコノロジーという手法  
型式学というものさし  
考古学は学際的な研究から孤立しているのか  
土偶って一体何？

土偶研究があり得るとすれば、その今後は？  
なぜ評価されたのか、その土壌を考える

考古学・人類学の関係史と『土偶を読む』（吉田泰幸）

加速させる人類学、減速させる考古学  
人類学者の説を吸収する考古学者たち  
社会へも取り込まれる人類学者の縄文理解  
二〇二〇年代の考古学の「叩かれ方」  
たとえ「穴だらけ」でも  
実験：「ハート形土偶サトイモ説」（望月昭秀）

知の「鑑定人」——専門知批判は専門知否定であってはならない（菅豊）

はじめに  
考古学者たちの冷たいあしらい  
『土偶を読む』の評価にあらわれる専門知への疑念  
専門家が言うことはあてにならない  
パブリック・アーケオロジーの知見  
考古学者が『土偶を読む』に向き合わなかったいくつかの理由  
知の「品質管理」  
まとめ—「ポスト真実時代」の専門知の役割



# 古文書の科学

料紙を複眼的に分析する

渋谷綾子・天野真志編

ISBN978-4-86766-004-1 C0021

A5判・並製・240頁

定価：本体1,900円（税別）

2023  
刊行

古文書や古記録類に用いられた紙は、果たしてどんなモノなのか。人文学ではなく、古文書を自然科学的に調べていくと、そこから何がわかるのか。

古文書研究に自然科学を結びつける入門として、基礎的な情報を紹介していく「古文書の科学」のガイドブック。古文書に残された痕跡から、肉眼では見えない部分にアプローチする方法を紹介していく、まさに料紙研究の新常識！

第1部では、古文書研究、日本史研究、異分野連携研究という3つの視点から、料紙が注目されてきたそれぞれの背景と経緯を紹介。第2部では、料紙の科学分析について、繊維、添加物、植物材料のDNAの三つを取り上げて解説。第3部では、史料調査と料紙分析の連携によって見込める成果について、第4部は、分析データの記録・保存ツールの紹介や情報基盤との連携の意義、国際的研究にむけての展開の必要性を、事例を交えて考察する。

本書は古文書研究に新たな可能性を見出そうとするものであると同時に、東アジア全体における歴史資料の科学研究へ貢献できる射程を持つものである。

古文書研究のみならず、大学、自治体、博物館、文書館、図書館など歴史資料の研究・保存・継承に従事する方に必携の書。

執筆は、本郷恵子／渋谷綾子／高島晶彦／天野真志／貫井裕恵／山家浩樹／大川昭典／富田正弘／湯山賢一／石川隆二／野村朋弘／尾上陽介／小倉慈司／中村 覚／山田太造／後藤 真。

## 【目次】

### ごあいさつ（本郷恵子）

#### はじめに（渋谷綾子）

1. 古文書と科学——料紙という結節点／2. 料紙研究の新常識を提唱する／3. 本書の読み方

### 第1部 古文書料紙への視点

#### 1 古文書研究からの視点（高島晶彦）

1. はじめに／2. 富田正弘による料紙論総括：黒板勝美
3. 富田正弘による料紙論総括：伊木寿一
4. 富田正弘による料紙論総括：中村直勝
5. 富田正弘による料紙論総括：小野晃嗣・寿岳文章
6. 富田正弘による料紙論総括：田中稔・上島有
7. 富田・湯山らによる古文書料紙研究

#### 2 近世の古文書と料紙研究の可能性（天野真志）

1. 近世文書への眼差し
2. 近世古文書学・史料学の確立に向けた議論
3. 近世料紙研究の現在地点／4. 新たな料紙研究への展望

#### 3 異分野連携からの視点（渋谷綾子）

1. 異分野連携とは何か／2. 繊維素材とネリへの注目
3. 添加物と糊への注目／4. 料紙の製作時期と成分への注目／5. まとめ

### COLUMN 料紙研究を語る

（渋谷綾子・貫井裕恵・天野真志・高島晶彦・山家浩樹

協力：大川昭典・富田正弘・湯山賢一）

1. はじめに／2. 料紙分析を始めたきっかけ／3. 研究データの可視化と共通認識

### 第2部 料紙の構造をさぐる

第2部を読む前に（渋谷綾子・天野真志）

#### 1 繊維をさぐる（高島晶彦）

1. はじめに／2. 各繊維の特徴

#### 2 添加物をさぐる（渋谷綾子）

1. 料紙の添加物／2. デンプン粒／3. 鉱物
4. 繊維、柔細胞、細胞組織／5. まとめ

#### 3 DNAをさぐる（石川隆二）

1. 植物を識別する／2. 植物ゲノム／3. どこまでわかるのか
4. カジノキの識別／5. 畑のクワ／6. MIG-seqによる解析／7. 神さまのクワ

### 第3部 料紙から古文書を読む

#### 1 松尾大社所蔵史料を読む（野村朋弘）

1. はじめに／2. 松尾大社所蔵の史料群について
3. 松尾大社所蔵の史料から見えてくるもの／4. おわりに

#### 2 陽明文庫所蔵史料による料紙研究の可能性（尾上陽介）

1. はじめに／2. 陽明文庫所蔵史料の概要／3. 料紙研究の可能性／4. おわりに

#### 3 マイクロスコープで「読む」（渋谷綾子）

1. マイクロスコープを知る／2. マイクロスコープを選ぶ
3. マイクロスコープで観察・撮影する／4. マイクロスコープでわかる／5. まとめ

### COLUMN 典籍近世写本の調査から（小倉慈司）

1. 土御門家旧蔵の『延喜式』／2. 原表紙か後補表紙か
3. 書写時期・書写者による料紙の違い

### 第4部 料紙研究を広げる

#### 1 データを記録・保存する（中村 覚）

1. はじめに／2. caidについて／3. 監視フォルダの設定
4. アプリケーションの操作／5. 画像とノード／6. メイン画面
7. データの編集／8. アノテーション編集画面
9. ノード情報編集画面／10. 画像一覧画面／11. 設定画面
12. フォーム編集画面／13. データのエクスポート／14. まとめ

#### 2 史料の形態データと内容データを関連付ける

—複合的史料研究推進に向けた史料情報統合—（山田太造）

1. はじめに／2. 複合的史料研究／3. 史料情報統合管理システム／4. おわりに

#### 3 世界へひらき、つなぐ（渋谷綾子）

1. 国際化と英語化／2. 料紙研究のオープンサイエンス
3. 世界の「紙」研究／4. まとめ—世界のなかで考える

### COLUMN 紙資料の「データ解析」が持つ

変革とコラボレーションの可能性（後藤 真）

1. 質的研究と量的研究／2. 量的研究のための「ステップ」
3. 量的基準・質的基準／

おわりに（渋谷綾子・天野真志）

用語集

執筆者・協力者一覧



# 江戸の絵本読解マニュアル

子どもから大人まで楽しんだ草双紙の読み方

## 叢の会編

ISBN978-4-86766-007-2 C0095  
A5判・上製・304頁（巻頭40頁カラー）  
定価：本体2,100円（税別）

2023  
刊行

桃太郎のライバル柿太郎！ 漢方薬のラブストーリー！

今の「絵本」の形式をもった、子どもから大人まで楽しんだ草双紙（くさそうし）が創り出されたのは、十八～十九世紀。京都・大坂の上方を追いかけ、文化を発展させてきた江戸で、絵と文の総合的な表現による大衆読み物が登場しました。

本書は、その草双紙がどのようなものか、どのような作品があるのか、草双紙から何が読み取れるのか、その世界を味わうための、読解マニュアルです。

全体は4部構成。「I 江戸の絵本＝草双紙一本の形と表現方法を知る」では本の形と、草双紙を読むうえで基本となる表現方法を説明。「II 絵入り読み物の歴史を知る」では、絵と文の総合的な表現の歴史を解説。草双紙にいたるまで、また草双紙以後の歴史もわかります。「III 草双紙作品の作り方・読み方」では、キャラクターや生活・文化などなど、様々な切り口で草双紙がどう作られてきたか、どう読めばいいのかをレクチャー。最後に「IV 草双紙と現在」。ここでは現在のマンガ・アニメとのつながりや、小学校で草双紙を扱った実践例などを紹介します。

本書一冊で、江戸の絵本の楽しみ方がわかります。

執筆は、黒石陽子、石田智也、内ヶ崎有里子、奥田粹ノ介、加藤康子、佐藤智子、杉本紀子、瀬川結美、手塚翔斗、檜山裕子、細谷敦仁、森節男。

### 【目次】

#### 【口絵】おかしく、ほほえましい場面、大集合！

- 1 桃太郎にはライバル柿太郎がいた？
- 2 漢方薬たちのラブストーリー
- 3 猫の怖いおはなし

#### 本書の読み方ー草双紙の世界へようこそ！

(1) 絵を読み解いてみる (2) 表現の特徴をつかむー約束事と特異な表現方法 (3) 絵巻物・絵入り冊子本・絵草紙・絵本・マンガ・アニメーションとのつながりを知る (4) 魅力を発見するー様々なおもしろさ (5) いまと異なる価値観を考える (6) これから草双紙をどのように読み、活用するか 草双紙の書名の扱い方

#### I 江戸の絵本＝草双紙一本の形と表現方法を知る

- 1 本の形ー版本の形と名称
  - (1) 表紙、題箋、外題、角書 (2) 丁、版心、匡郭 (3) 初版、再版、改題 (4) 巻、画工・作者、彫師・刷師・版元
- 2 登場人物の名前の示し方ー袖の文字
- 3 キャラクターの描き方ー擬人化
- 4 時間や場所の示し方ー異時同図
- 5 流行の取り入れ方ー当世化

#### II 絵入り読み物の歴史を知る

- 1 江戸時代以前から江戸時代の前期
- 2 江戸時代の中期
- 3 江戸時代の後期
- 4 明治時代以降

#### III 草双紙作品の作り方・読み方

- 1 キャラクター編
  - 1 桃太郎のライバル柿太郎 『風流 桃太郎柿太郎 勇力競』
  - 2 主役は桃太郎？ 『桃太郎一代記』
  - 3 変身対決 『金平猪熊退治』

- 4 鬼には鬼の、暮らしあり 『つわものてから』
- 5 江戸時代の人気ヒーロー鎌田又八 『鎌田又八化物退治』
- 6 小さいからこそ 『諸道 まめ介 息才男』
- 7 袖の文字から知る秘密 『源太夫』
- 8 慳貪翁を描く 『花咲翁誉魁』
- 9 悪に染まった弟 『名将 大江山入』
- 10 草双紙に描かれる化物たち 『平家化物たいぢ』ほか
- 2 生活・文化編
  - 1 雨やあられはどうして降るの？ 『おにの四季あそび』
  - 2 江戸の出産 『鼠よめ入』
  - 3 病鉢巻が示すこと 『再板 桃太郎昔語』・『鎌倉金沢 朝比奈切通』ほか
  - 4 子どもの本音 『いろは文字 寺子短歌』
  - 5 神の力で男が女に 『男珠取』
  - 6 物好き大臣の驚くべき再現力 『しほかま』
  - 7 流行語が大活躍 『にほいふくろ』
  - 8 ヘンテコ療治 『仙伝秘法 趣向気工』
  - 9 情報ネットワークで金儲け 『万民大福帳』
  - 10 アルファベットも読んでいた？ 『三国昔噺 和漢蘭雑話』
  - 11 お出掛け心をくすぐる仕掛け 『八わたしらす』ほか
  - 12 柳の下には幽霊がいる 『雪中濃両敵』ほか

#### 3 時間と空間の記号編

- 1 雲形郭線の効用 『清盛一代記』ほか
- 2 窓の効用ーこっそりと読者に教える方法 『和泉式部花鏡』ほか

#### 4 絵と文のコラボレーション編

- 1 まるで動画のような 『鎌倉金沢 朝比奈切通』
- 2 ページに潜む百人一首 『猿廻春花婿』
- 3 源氏物語をリメイク 『女三宮簾の追風』
- 4 長編を読み解く 『通俗 三国志』
- 5 一代記を読み解く 『義経一代記』
- 6 鞍馬山の少年 『敵討鞍馬天狗』
- 7 草双紙ならではの読み方 『鐘銘 道成寺根元記』
- 8 殺されたのは 『敵討美女窟』
- 9 鍵と型で読む 『分福 丹頂鶴』
- 10 口絵で見せる 『忍弾仇汐汲』

#### 5 芸能とのコラボレーション編

- 1 赤穂浪士は悪の手先 『敵討連理の梅』
- 2 役者とキャラを重ねて 『菅原伝授手習鑑』
- 3 舞台裏を描く 『尾上伊太八局岩藤 帰咲故郷之錦絵』

#### 6 ヒーローと残酷な表現編

- 1 圧倒的なヒーローをどう読むか 『きんときおさなだち』
- 2 残酷な表現をどう読むか 『兔大手柄』

#### IV 草双紙と現在

- 1 草双紙から続くもの 『風流 魚鳥大合戦』ほか
  - 2 マンガから見る草双紙 『つわものてから』ほか
  - 3 子どもたちに草双紙の魅力を伝える
  - 4 もっと草双紙を楽しむために
- あとがき

#### 資料

- 1 図版の出典情報一覧
- 2 主な参考文献一覧



# 未来を切り拓く古典教材

和本・くずし字でこんな授業ができる

同志社大学古典教材開発研究センター・

山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸編

ISBN978-4-86766-003-4 C0095

A5判・並製・208頁（フルカラー）

定価：本体1,900円（税別）

2023  
刊行

古典を学ぶ楽しさをどう伝えていけばいいのか。

古典を他人事にせず、現代と結びついたものとしてとらえ、少しでも古典に共感できるようにするためにはどうしたらよいか。和本やくずし字を用いた古典教材のあり方を提案する書です。

本書に収録するのは、教科書の古典とは違う、生きた古典の世界を伝えるための、誰もがプリントして利用できる、解答・解説付きのくずし字教材です。多忙を極める教育現場でも使えるよう、なるべく短時間で授業ができるようにしました。ぜひこれらを多くの方に使っていただければと思います。

問題だけでなく、本書は古典教育への新しい切り口を目指すべく、入門編として「古典への誘い方」「和本への誘い方」「くずし字への誘い方」という章立てで、現場から古典教育を再構築していく意欲的な取り組みを紹介します。こちらは大いに参加になる基礎知識・実践例を豊富に収録しました。

古典や古典籍は過去・現在・未来をつなぐタイムカプセルであり、自由に往き来できるタイムマシンでもあります。コミュニケーションツールとしての古典、あるいは、生涯を通して学び続ける喜びを生み出してくれる磁場としての古典を、本書を起点に多くの方々と考え、作っていただければと思います。

執筆は、仲島ひとみ／有田祐輔／森木三穂／江口啓子／佐々木孝浩／近江弥穂子／加藤弓枝／加藤直志／飯倉洋一／加藤十握／三宅宏幸／山田和人／永田郁子／岩崎彩香／高須奈都子／永吉寛行／くずし字一覧＝松本文子（字例の墨書）／現古絵合わせカルタ＝谷口悠・上久保咲穂・三田村幸菜・遠藤杏・若井花楠子・西川実那・稲田香保（二〇二一年度同志社大学プロジェクト科目履修生）・イラスト＝遠藤杏・書写初案＝若井花楠子・書写＝日比野由佳。

## 【目次】

はじめに——これからの古典教育のために 山田和人（同志社大学）

### 第1部 入門編

#### STEP1 古典への誘い方

総論 本当に必要なのかと言わせない古典 仲島ひとみ（国際基督教大学高等学校）

1 「こてほん」の衝撃／2 なぜ必要性を問われてしまうのか／3 古典と外発的動機付け／4 古典と内発的動機付け／5 本当に必要なのかと言わせない古典／6 competence 読める、読めるぞ！／7 Autonomy 自分で決める！ 選ぶ！／8 Relatedness みんなで！ 推し！

実践1 古典世界に誘うための「フック」と「問い」

有田祐輔（大阪府立茨木高等学校）

実践2 古典のSTEAM化——「ものづくり」による学びの実践

森木三穂（鶴岡工業高等専門学校）

実践3 イメージで現代とつなぐ古典

江口啓子（豊田工業高等専門学校）

#### STEP2 和本への誘い方

総論 和本のポテンシャル——教材としての古典籍利用の可能性

佐々木孝浩（慶應義塾大学附属研究所道文庫）

1 はじめに／2 和本の基礎知識／3 教材としての和本の選択

4 和本は歴史の生き証人／5 おわりに

実践1 貴重書出前授業が伝えてくれたこと

近江弥穂子（横浜市立あざみ野第一小学校）

実践2 古典籍無償貸出プロジェクト「和本バンク」のすすめ

加藤弓枝（名古屋市立大学）

実践3 実際の和本を利用した出前授業

加藤直志（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

実践4 和本の基礎知識

加藤弓枝（名古屋市立大学）

### STEP3 くずし字への誘い方

総論 なぜ「くずし字教育」が必要なのか

飯倉洋一（大阪大学名誉教授）

1 はじめに／2 「くずし字教育」と私／3 IT時代の「くずし

字教育」／4 なぜ「くずし字教育」が必要なのか／5 結語

実践1 くずし字を解読して古典学習の旅に出る

加藤十握（武蔵高等学校中学校）

実践2 国語科教育にくずし字や和本はどう関わるか——学習指導

要領との関連から

加藤直志（名古屋大学教育学部附属中・高等学校）

実践3 くずし字学習の基礎知識

山田和人（同志社大学）

実践4 古典籍のデジタルアーカイブ利用の一例

三宅宏幸（愛知県立大学）

## 第2部 教材編

初級 地誌・紀行文を読んでみよう！

永田郁子（滋賀大学教育学部附属中学校）

初級 昔の「桃太郎」を読んでみよう！

加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸

初級 昔の「さるかに合戦」を読んでみよう！

加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸

中級 百人一首のパロディを読んでみよう！

加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸

初級 『百人一首』とそのパロディを読んでみよう！

加藤十握

中級 「天徳内裏歌合」の和歌を読んでみよう！

岩崎彩香（青森県立八戸北高等学校）

初級 小袖雛形本を読んでみよう！

高須奈都子（大阪商業大学非常勤講師）

中級 江戸時代のパロディを読んでみよう！

加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸

初級 『竹取物語』をくずし字で読んでみよう！

加藤弓枝

初級 看板から文字文化を学

ぼう！

永吉寛行（宮崎大学）

初級 昔の謎かけを読んでみ

よう！

三宅宏幸

おわりに——未来を切り拓く

古典教材へ

山田和人（同志社大学）

付録

くずし字一覧表

現古絵合わせカルタ



# 西鶴『誹諧独吟一日千句』研究と註解

中嶋 隆

ISBN978-4-909658-98-2 C0095

A5判・上製・336頁

定価：本体 6,000円（税別）

2023  
刊行

西鶴の俳諧はあたかも絵画における習作デッサンのように、小説の場面に転化しうるような無数のコンテキストがイメージされる。

延宝三年、中世以前にはない量とスピードという江戸時代の商品流通に伴った、新しい価値観のなか生まれた『誹諧独吟一日千句（はいかいどくぎんいちにちせんく）』。その時代と、発想の世界を研究と註解で縦横無尽に読み解き、解き明かす。

底本は野間光辰校注『定本西鶴全集』十巻（中央公論社、1954年）を用い、『天理図書館善本叢書 39 談林俳諧集』（八木書店、1978年）所収の影印を参照。【句意】【注】【付合】【鑑賞】で丁寧に読み解く。

【コンテキストの複雑が、西鶴の俳諧と浮世草子とに共通すると先に述べたが、西鶴の想像力は前句から喚起される一場面にまず集中し、そこから詞をつむぎだす句作が始まる。あたかも絵画における習作デッサンのように、小説の場面に転化しうるような無数のコンテキストがイメージされる点に、西鶴の俳諧の特徴があった。】……「研究編」より

## 【目次】

### 序

#### 研究編

- 1 文化的背景
- 2 西鶴の俳書出版
- 3 『誹諧独吟一日千句』の創意
- 4 『誹諧独吟一日千句』の「無心所着」
- 5 『誹諧独吟一日千句』の付合
- 6 『誹諧独吟一日千句』の小説的俳諧——『冬の日』からの照射——

#### 註解編

##### 凡例

- 西鶴『誹諧独吟一日千句』序註解
- 西鶴『誹諧独吟一日千句』第一註解
- 西鶴『誹諧独吟一日千句』第二註解
- 西鶴『誹諧独吟一日千句』第三註解
- 西鶴『誹諧独吟一日千句』第四註解
- 西鶴『誹諧独吟一日千句』第五註解

#### 参考文献

#### 索引

- 句
- 人名
- 書名
- 事項・語彙

#### 【凡例】

校訂… 註解にあたっては、以下の方針によった。

一、底本には野間光辰校注『定本西鶴全集』十巻（中央公論社一九五四）を用い、『天理図書館善本叢書 39 談林俳諧集』（八木書店 一九七八）所収の影印を参照した。

一、漢字は常用字体を原則にしたが、一部には異体字や旧字を用いた。

一、仮名の濁点は適宜補ったが、別な解釈が可能と思われる箇所には【注】に原文の表記を記した。

一、季のあとの（ ）には季語、漢数字で句数を記した。「恋」については、漢数字でその句数を記した。「月」「花」の定座については、その句に「月」「花」が詠みこまれない場合には、（ ）でくくった。

一、〈頭注〉は、野間光辰校注『定本西鶴全集』十巻の頭注をさす。

一、【付合】の付け物はおおむね『類船集』に拠った。（ ）でくくったのは、直接句には出ないが、『類船集』に載る、その句に関連した詞である。

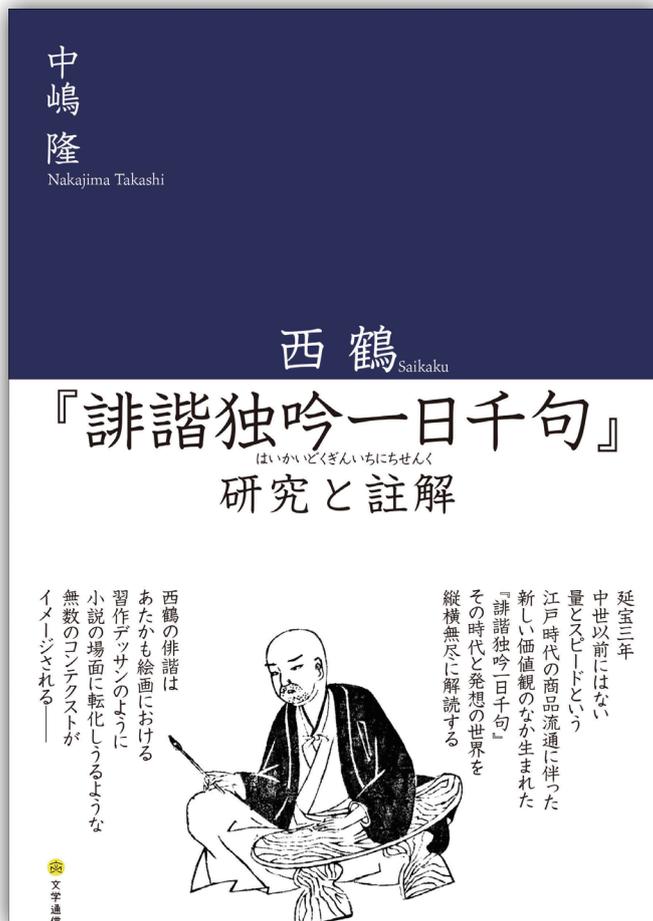
一、句の順を示す略号は、以下の通りである。

（初表）「初折」の表（初裏）「初折」の裏

（二表）「二の折」の表（二裏）「二の折」の裏

（三表）「三の折」の表（三裏）「三の折」の裏

（名表）「名残の折」の表（名裏）「名残の折」の裏



# 和学知辺草 (わがくしるべぐさ) 【翻刻・注釈・現代語訳】

中尾友香梨・白石良夫・中尾健一郎・村上義明編 小城鍋島文庫研究会校注

ISBN978-4-86766-002-7 C0020

A5判・上製・336頁

定価：本体 6,000円（税別）

2023  
刊行

埋もれていた、もう一つの「うひ山ぶみ」。  
知られざる近世の和学手引き書『和学知辺草(わがくしるべぐさ)』、  
初の翻刻・注釈・現代語訳！

漢学では徂徠学が急速な衰えを見せ、朱子学が盛り返し、異学の禁が発令され、国学では真淵の学風を受け継いだ宣長の学問が完成期を迎えていた、寛政年間（一七八九～一八〇一）。

和学の手引き書が、佐賀の地で作られていた。

著者は「幽林舎散人」。寛政三年秋に官職を解かれ、該書成立の時はすでに六十歳を迎えようとしていたことが、自叙から知られるのみ。該博な学識を満載した本著作から、ひとかどの知識人と推察されるが、年代を考えると、おそらく鍋島直嵩（一七五三～八三）の主導する歌壇および文芸サロンに身を置いた人物であろう。

果たして江戸や松坂の新知識はどう伝えられていたのか。

近世思想史、文学史を知るための必読の書。

執筆は、中尾友香梨、白石良夫、進藤康子、大久保順子、亀井 森、土屋育子、中尾健一郎、沼尻利通、日高愛子、村上義明、二宮愛理、脇山真衣、（翻字）三ツ松誠、田中圭子、中山成一。

## 【目次】

埋もれていたもう一つの「うひ山ぶみ」——まえがきにかけて（中尾友香梨）

和学知辺草の執筆動機とその背景（村上義明）

凡例

## 翻刻と注釈

自叙

凡例

## 巻之上

- (1) 世界の中の日本
- (2) 日本、唐土、印度
- (3) 和漢帝系の優劣
- (4) 日本は武の国、唐土は文の国
- (5) 言葉の国、学芸の国、音韻の国
- (6) 日本語の文字
- (7) 和歌のこと、漢詩のこと
- (8) 儒者の偏見

## 巻之中

- (9) 日本の異称
- (10) 和漢国土の広狭と制度
- (11) 神道の伝授
- (12) 神祇官の盛衰
- (13) 異国の神道、本朝の神道
- (14) 天子と祭祀
- (15) 上代神道の盛況
- (16) 神道の大意
- (17) 神を祭る、神に詔う
- (18) 人倫の道の和漢の相違
- (19) 神道の諸流
- (20) 習合の神道

- (21) 両部神道
- 巻之下
- (22) 斎元神道
- (23) 唯一宗源神道
- (24) 本地垂迹の果て
- (25) 大黒と恵比須
- (26) 儒学の来由
- (27) 六経のこと
- (28) 孔子の評価
- (29) 古今の学術の相違
- (30) 唐土儒教の流れ
- (31) いにしえに五行配当なし
- (32) 五行配当の説
- (33) 唐土以外にも教えあり
- (34) 唐土の学問
- (35) 孟子の評価
- (36) 本朝学問の始まり
- (37) 本朝学校の沿革
- (38) 本朝学校の普及
- (39) 本朝いにしえの学制
- (40) いにしえの軍制
- (41) 天皇の学問
- (42) 古人の強記ぶり
- (43) 金沢文庫
- (44) 本朝宋学の沿革
- (45) 本朝陽明学と古学
- (46) 漢文訓読略史
- (47) 漢文訓読の法
- (48) 日本人の漢詩文
- (49) 和書を読む、漢籍を読む
- (50) 書物版刻の盛行

## 現代語訳（白石良夫）

自叙 凡例 (1) ～ (50)

あとがき

注釈典拠一覧

索引（人名・書名・事項）

執筆者一覧



# 燈謎 (とうめい) 漢字文化圏文字遊戯の諸相

呉 修喆

ISBN978-4-909658-94-4 C0098

A5判・上製・298頁

定価：本体 6,000円（税別）

2023  
刊行

これはどうやって解く〈なぞなぞ〉なのか。

文字遊戯に心酔し、作品を創り、知的コミュニティを結成し、燈謎というものの価値を世間に大いに喧伝しようとした人々の思いとは。

漢字語彙の多義性を利用し、違う意味に読み替えていく、または、本来の語彙・文字を分解・変形させるなど、多様な技巧が含まれる、燈謎（とうめい）。長い間、性質と輪郭が曖昧な、文学と民俗のはざまにさまようコウモリのようなものになってしまっている、燈謎。本書は、透明にされがちな燈謎の作り手に光をあて、中国の燈謎文化史の欠けたピースを補うものである。

燈謎という漢字文化圏文字遊戯の七世紀にわたる変遷から、漢字文化の根底に潜んでいるエネルギーをダイナミックに描き出した書。附章「平城宮跡出土組み合わせ文字の水脈をたどる」では、遊戯的表現が誕生するきっかけになりうる様態を確認、検討することにより、民間信仰の深層に潜り込んだ文字遊戯からその背後に広がる豊かな文化世界への糸口として捉えようとする野心的な研究。中国文化文学のみならず、漢字文化圏の研究者必携の書です。

【本書は燈謎についてはっきりとした定義を提供することを目的としているわけではない。やや弁解じみた言い方をすると、本書は、研究対象の定義のしにくさを出発点としている。明白な定義を下しにくい現状を作り出したのは何なのか、それをめぐって先人たちはどのような葛藤を抱えてきたのかを考察したものである。ゆえに、本書は燈謎そのものに対する研究というより、そのような文字遊戯に心酔し、作品を創り、燈謎で知的コミュニティを結成し、燈謎というものの価値を世間に大いに喧伝しようとする人々の思いを描こうとするものである。】……序章より。

## 【目次】

### 序章 謎解き集う人々

- 「燈謎」とは燈籠に掲げるなぞなぞなのか？
- 燈謎研究の現状と問題点

### 第一章 演じられた謎かけ

- ライブ・エンターテインメントとしての「商謎」
- 筆記小説に見られる商謎の類例
- 本章のまとめ

### 第二章 カテゴリーされる謎

- 明末の燈謎攻略書
- 九種の日用類書
- 燈謎の位置付けと分類
- 本章のまとめ

### 第三章 章回小説に織り込まれた燈謎

- 明末清初の世情小説：西周生『醒世姻縁伝』
- 『紅樓夢』とその続書
- 才学小説：李汝珍『鏡花縁』

- 才子佳人・狎邪小説
- 小説革命以降の章回小説
- 本章のまとめ

### 第四章 謎作りに興じた人々

- 燈謎に積もる話
- 近代ジャーナリズムの流れに乗って
- 中国民俗学との齟齬
- 本章のまとめ

### 第五章 文化的郷愁とともに

- 近代台湾における燈謎活動
  - 日本統治時代以前（一六六一—一八九五）
  - 日本統治時代（一八九五—一九四五）
- 戦後の文化政策と謎社の復興
  - 戦後の「中国化」（一九四五—一九六五）
  - 中華文化復興運動期（一九六六—一九七六）
  - 文化建設から「本土化」へ（一九七七—現在）
- 本章のまとめ

### 第六章 引き継がれた燈火

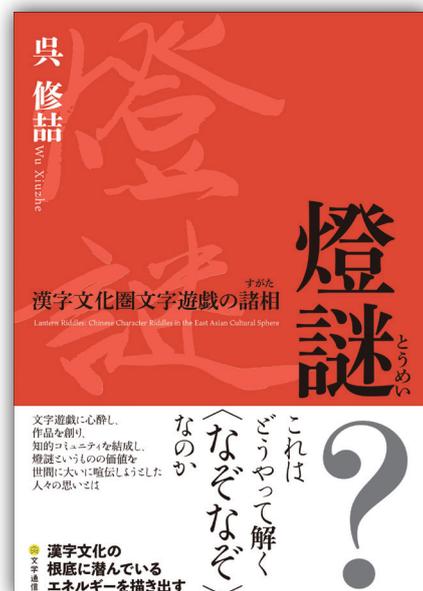
- 戦後大陸における燈謎活動
  - 謎社の分布と種類
  - 一九九〇年代大陸謎人の基本状況
  - 全国的な刊行物と組織
- 断層を乗り越えて
  - 復活と統制（戦後から文革期まで）
  - 蘇生（文革収束後から一九八〇年代まで）
  - 組織の移転と競技化ブーム（九〇年代以降）
- 本章のまとめ

### 終章 境界線上の〈戯れ〉

#### 附章 平城宮跡出土組み合わせ文字の水脈をたどる

- 文字遊戯の水脈
- 呪符説の再考
- 文字遊戯のシルクロード
- 推論と仮説

あとがき  
初出一覧  
参考文献  
索引



# 児童雑誌の誕生

柿本真代

ISBN978-4-86766-001-0 C0095

A5判・上製・296頁

定価：本体2,800円（税別）

2023  
刊行

こうして書物は国境を越え、日本の児童雑誌が生まれた。近代日本において児童雑誌がどのように生み出されたか、どのような読書文化を形づくってきたのか、歴史的な視座から問いなおす書。

従来の「創造性」や「芸術性」を中心に論じられてきた児童文学史に対して、西洋からのノウハウの習得や、流通構造に着目することで、当時の児童雑誌とその読者のありようを立体的に描く。キリスト教と教育関係、ふたつのルートから、子どもの読み物が日本に入り、そして翻訳・編集を経て児童雑誌が誕生し、日本に住む子どもたちに届けられ、そして読まれるまでの流れについて解明する。国境を越えて書物がもたらされ、新たな読者集団を形成していく、創造性に富んだ、日本の児童雑誌が生まれるまでのダイナミズムを、あますところなく明らかにする。

『少年園』以前の、いわゆる〈胎動期〉の児童雑誌から本格的に分析する初の書。

児童文学に関心がある人のみならず、書物学・図書館学等、書物に関心がある人、必読です。

## 【目次】

### 序論

- 第1節 目的と研究史
- 第2節 問題の所在
- 第3節 分析方法
- 第4節 史料
- 第5節 構成

### 第1章 キリスト教伝道と子どもの読み物

- 第1節 伝道の開始とトラクト
- 第2節 『ピープ・オブ・デイ』シリーズと日本での受容
- 第3節 『ピープ・オブ・デイ』の翻訳
- 第4節 『眞神教晩』の評価
- 第5節 『ライン・アポン・ライン』の翻訳
- 第6節 宣教師と日本社会のリテラシー

### 第2章 児童雑誌の源流——『よろこばしきおとづれ』と日曜学校運動

- 第1節 『よろこばしきおとづれ』の編集
- 第2節 『小孩月報』と『よろこばしきおとづれ』
- 第3節 外国日曜学校協会と雑誌の運営
- 第4節 比較と特色
- 第5節 読者と流通

### 第3章 児童雑誌の誕生——『ちゑのあけぼの』とキリスト教

- 第1節 『ちゑのあけぼの』の関係者たち
- 第2節 『ちゑのあけぼの』の創刊の目的
- 第3節 キリスト教との距離

### 第4章 児童雑誌の展開——『少年園』と西洋文化

- 第1節 『少年園』と『セント・ニコラス』
- 第2節 日本における『セント・ニコラス』の受容
- 第3節 山縣悌三郎の来歴と洋書の受容
- 第4節 Fumio Yamagataの投稿と皇太子
- 第5節 『少年園』における『セント・ニコラス』の記事
- 第6節 『少年園』における加筆修正
- 第7節 『少年園』の西洋観
- 第8節 児童雑誌と西洋

### 第5章 児童雑誌の読書実態——『少年園』の書き入れをめぐる

- 第1節 書き入れの史的価値
- 第2節 『少年園』はどう読まれたか
- 第3節 批判的に読むということ
- 第4節 すすめられた読書法

### 第6章 読書する子どものイメージ——二宮金次郎の読書図を手掛かりに

- 第1節 読書する偉人、二宮金次郎
- 第2節 二宮金次郎と「負薪読書」図の定着
- 第3節 江戸時代の「負薪」図、「負薪読書」図
- 第4節 二宮金次郎＝「負薪読書」図に至るまで
- 第5節 江戸と明治の「負薪」「読書」図

## 終章

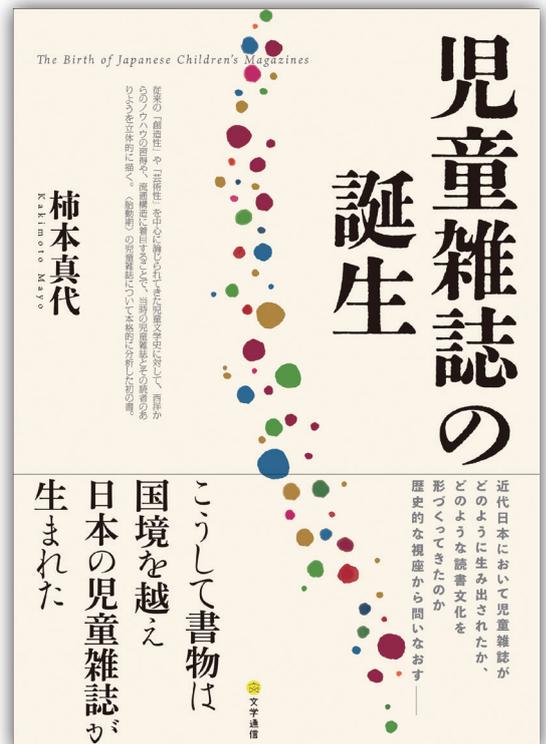
## 付録

### 『よろこばしきおとづれ』目録

### 『ちゑのあけぼの』目録

### 図版目次

### 索引



# 源氏物語夢見論

笹生美貴子

ISBN978-4-909658-99-9 C0095

A5判・上製・504頁

定価：本体7,000円（税別）

2023  
刊行

『源氏物語』の夢から何がわかるのか。物語の夢世界の在り方を解明しようとする。光源氏と明石一族を取りまく夢の謎を中心に、物語の夢の特性を探る。明石一族と『源氏物語』周辺人物の夢との比較、その他の平安後期物語に見られる夢が描かれた場面も加えて総合的に分析し、古注釈や現代注釈の見解に加え、翻訳書（中国語訳）の解釈や注に書かれる見解も積極的取り入れ、読みを深める。『源氏物語』に見られる不可思議な夢（全二十四例）の解釈を中心とした、十七本の論考より成る。

推薦・久富木原玲（愛知県立大学名誉教授）「人は何故夢を見るのか。夢の不思議を物語の中に見出し、翻訳論などの多様な視点から解き明かして魅力的な論を展開する。「夢」を追い続け、「夢」に取り組み歩んできた著者の集大成の書である。」

## 【目次】

序章 『源氏物語』の夢から何がわかるのか

第I部 明石一族における夢の役割 (1) 一子出生の夢・夢実現の共同体意識の織りなす力学

第一章 『源氏物語』を中心とした仮名文学における夢主の設定一子出生に関する夢を見る者達

はじめに／一 父・母・第三者が見る子出生に関する夢の特徴／二 『源氏物語』での源氏と明石入道の見た夢一包括される夢／三 源氏と柏木の見た夢一密通による因果応報譚と猫の夢／四 父が子出生に関する夢を見る意義／五 『源氏物語』での女性が見る夢の特徴／おわりに

第二章 「明石」巻における夢一その構造を考える

はじめに／一 朱雀帝の夢について／二 兄弟姉妹間での勝敗の物語について一夢・遊戯を中心に／三 「明石」巻の夢における『うつほ物語』投影の可能性／四 語られない夢物語という方法一生成される夢の重み／おわりに

第三章 源氏物語「明石一族」の意志一『古今和歌集』一〇〇三番歌引用を起点として

はじめに／一 明石入道の夢語りについて／二 十八年が二度記される意味／三 「老の波の皺のぶばかりに」に見る『古今和歌集』引用と変奏／四 予言に見られる「御子三人」と明石姫君一明石一族の運命を切り拓く明石尼君／おわりに

第四章 明石一族を取り巻く夢一「夢実現の共同体、の視座から

はじめに／一 平安貴族社会における夢の共有意識／二 明石一族を取り巻く複数の夢／三 源氏と朱雀帝の夢一共通する故桐壺院出現の意味／おわりに

第五章 平安後期物語の夢に込められた『源氏物語』批評の意識

はじめに／一 『源氏物語』明石一族を取り巻く夢の場合一同種の夢を描く意味／二 『狭衣物語』の場合一夢の非共有そして軌道修正を描く意味／三 『浜松中納言物語』の場合一二度描かれる秦の親王の夢の意味／おわりに

第II部 明石一族における夢の役割 (2) 一明石一族の夢を別角度から捉える

第一章 書かれざる秘史一明石入道と〈琴〉と〈夢〉

はじめに／一 琴と王権一古代中国と古代日本における琴／二 『源氏物語』の琴一『うつほ物語』との関連性について／三 明石物語に見られる〈琴〉と〈夢〉／おわりに

第二章 『源氏物語』と〈琴〉一明石入道の場合

はじめに／一 琴の特性一和漢比較の視点から／二 明石一族の栄達と楽器の関係一琵琶・琴／三 明石入道との別れ一「琴」と「琵琶」が両方描かれる意味について／おわりに

第三章 平安期物語文学における〈琴〉と〈夢〉

はじめに／一 『琴操』と平安期物語の関係一『源氏物語』を中心に／二 『源氏物語』須磨退居の場面と『琴操』『周金藤』／三 『うつほ物語』俊蔭一族と『源氏物語』明石一族一〈琴〉と〈夢〉の奇瑞の連携／四 平安後期物語文学での琴と夢一奇瑞の希薄化／おわりに

補論 蛭兵部卿宮と明石入道 覚書一六条院世界を支える者たち

はじめに／一 『源氏物語』における兵部卿宮／二 移りゆく役割／三 源氏の栄華を支える者達一蛭宮と明石入道／おわりに

第III部 周辺人物に関わる夢一物語を紡ぎ出す仕組み

第一章 『源氏物語』に見られる〈呉竹〉一夕顔・玉鬘母子物語の伏線機能

はじめに／一 〈呉竹〉について／二 玉鬘母子を表象する〈呉竹〉の描写／三 〈竹〉の負性そして〈夢〉の介入一『大和物語』（一四七段「生田川」）・『蜻蛉日記』を媒介に／おわりに

第二章 鬘黒北の方と紫上一葛藤する〈前妻〉たち

はじめに／一 繰り返される〈前妻・後妻〉の問題一鬘黒北の方の母を起点として／二 「真木柱」・「若菜上」巻における類似構造／三 玉鬘と女三の宮を取り巻く五人の求婚者について一『竹取物語』前妻大伴御行の大納言北の方と鬘黒北の方・紫上との連関／四 鬘黒北の方と紫上の嫉妬一『大和物語』『沖つ白波』の世界が形成するもの／五 鬘黒北の方の〈灰〉と紫上の〈夢〉について一物の怪化と葛藤する前妻たち／六 「御法」巻の問題一救済されゆく紫上の視点から／おわりに

第三章 隠蔽されゆく柏木の個人的情念一二つの〈夢〉を手がかりとして

はじめに／一 死を志向する柏木一家意識／個人的情念という二面性／二 柏木物語に見られる夢の解釈／三 隠蔽されゆく柏木の「個人的情念」一残された者達の思惑／おわりに

第四章 〈夢〉が見られない大君一宇治十帖の父・娘を導くもの

はじめに／一 「竹河」巻での桜描写／二 八の宮の遺言一解釈の差異を生み出すもの／三 亡八の宮の現れる夢について／おわりに

第五章 「浮舟物語」における母一菟原処女伝説より生成される母の救済

はじめに／一 高橋連虫麻呂歌 菟原処女伝説／二 浮舟物語における父・母・娘／三 処女塚伝説と「浮舟物語」一母を問う／おわりに

補論 『源氏物語』における副詞「ゆめ（夢）」の一解釈一忍ぶ恋の世界観を形成するもの

はじめに／一 『源氏物語』本文に見られる「ゆめ（夢）」表記について一平仮名・漢字別記の意味／二 副詞「ゆめ」関係の文法整理／三 和歌における副詞「ゆめ」と名詞「夢」一言葉の連関により生成される世界観／四 副詞「ゆめ」の一解釈一忍ぶ恋の世界観を形成するもの／五 秘密漏洩の空間としての「ゆめ」／おわりに

第IV部 翻訳文学がもたらす新たな「夢」解釈一中国語訳を例として

第一章 『源氏物語』の翻訳により拓かれる世界一中国語訳『源氏物語』『夢』

の描写方法を中心に

第二章 豊子愷訳『源氏物語』における

明石像一翻訳書の可能性を探る

終章 物語の夢からわかること



# おもろさうし選詳解

島村幸一

2023  
刊行

ISBN978-4-909658-97-5 C0095

A5判・上製・896頁

定価：本体10,000円（税別）

今までの注釈ではオモロを捉え切れない——最新の『おもろさうし』研究である、全六十九首の『おもろさうし』の「選詳解」。

これまでのオモロの注釈や解釈では、特に他の琉球歌謡との比較がほとんど行われていなかった。また、オモロ語の詳しい用例、オモロ以外の歌謡の中の用例も参照する必要があるが、オモロ語注に利用できる研究成果も現在では多数存在している。また新たに加えられなくてはならない視点として、オモロが位置付く巻の性格や前後の排列に配慮しなければならない。本書はこういったことを加えたうえで、本文・鑑賞・歌形・語釈・解説で一首の詳しい注釈と解説を行いユニークな魅力を伝える、最新の『おもろさうし』詳解。

【『おもろさうし』（全二十二）には、一五五三首（尚家本）のオモロが収録されている。編纂年は、巻の扉書きから第一が「嘉靖十年」（一五三一。琉球国の元号記載の基本は中国元号）、第二が「万曆四十元年」（一六一三）、第三以下が「天啓三年」（一六二三）である。ただし、第十一、十四、十七、二十二には編纂年の記載がない。『おもろさうし』の編纂の実質は、第三回目の「天啓三年」が中心であったと考えられる。】

【オモロは、おそらく万葉歌や記紀歌謡、あるいは神楽歌、催馬楽等とほとんど比較できない唯一無二の歌謡であると考えられ

る。西郷が「オモロの世界」で示した「オモロはちょっと他に類比項の見あたらぬ歌謡であり」、「私には、同質性よりはむしろその独自性の方が強く印象づけられている」という理解は妥当である。そして、このことは琉球文学が現在の日本文学の枠にそのまま収まらないことを意味している。】……「序文」より

## 【目次】

序文—『おもろさうし選詳解』を読むために

- はじめに
- オモロの理解の難しさ
- オモロの歌形、小野重朗が提示した分離解読法
- オモロの記載と歌形
- 舞踊歌としてのオモロ
- 連続部と反復部の接近、二節のオモロなど
- まとめとして
- 凡例

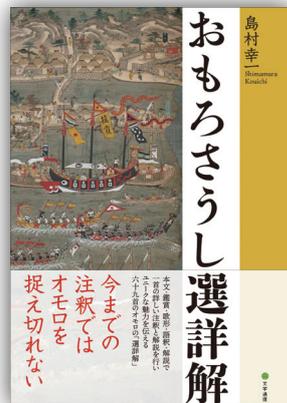
## 『おもろさうし』選詳解

第一～第二十二

あとがき

初出一覧

索引（引用歌謡・語注・一般項目）



# 家康徹底解読

ここまでわかった本当の姿

堀 新・井上泰至編

ISBN978-4-909658-95-1 C0021

A5判・並製・388頁

定価：本体2,700円（税別）

2023  
刊行

徳川家康はいかに記録され、どのようにフィクションで描かれてきたか。本書ではその幼き日々から、関ヶ原の戦い、死後の神格化にいたるまで、14の主要テーマから徳川家康の虚像と実像を追究します。歴史学・文学・美術史の諸分野から家康像にアプローチし、それぞれ最新の研究動向をふまえて論じ尽くします。

これから家康について知りたい人、これまで抱いていた家康像をアップデートしたい人にとって必携の一冊。

また、大河ドラマの予習復習に。「どうする家康」の時代考証、平山優氏、柴裕之氏執筆。

## 【本書の特徴】

▼生い立ちから関ヶ原の戦い、死後の神格化まで、14のテーマから家康の虚像と実像を追究！

▼歴史学・文学・美術史の諸分野から家康にアプローチ！

▼大河ドラマ「どうする家康」時代考証者の平山優氏・柴裕之氏も執筆！

▼付録として「家康関連作品目録（軍記・軍書・史書・実録・史論・図会・随筆・小説）」「家康関連演劇作品初演年表（人形浄瑠璃・歌舞伎）」を収録！

## 【目次】

凡人の非凡——序にかえて ▼井上泰至

- 松平氏の出自 [実像編] 山田邦明 [虚像編] 平野仁也
- 人質時代の家康 [実像編] 糟谷幸裕 [虚像編] 丸井貴史
- 清須同盟 [実像編] 和田裕弘 [虚像編] 菊池庸介
- 三河一向一揆 [実像編] 竹間芳明 [虚像編] 塩谷菊美
- 築山殿と松平信康事件 [実像編] 桐野作人 [虚像編] 原田真澄
- 三方ヶ原の戦い [実像編] 原史彦 [虚像編] 湯浅佳子
- 徳川家臣団（四天王を中心に） [実像編] 柴裕之 [虚像編] 小口康仁
- 伊賀越えと天正壬午の乱 [実像編] 平山優 [虚像編] 網野可苗
- 小牧・長久手の戦い [実像編] 堀新 [虚像編] 竹内洪介
- 家康と江戸 [実像編] 岡野友彦 [虚像編] 森暁子
- 関ヶ原の戦い [実像編] 林晃弘 [虚像編] 井上泰至
- 徳川家康と天皇 [実像編] 松澤克行 [虚像編] 井上泰至
- 方広寺鐘銘事件と大坂の陣 [実像編] 光成準治 [虚像編] 湯浅佳子
- 家康の神格化 [実像編] 曾根原理 [虚像編] 井上泰至

## ○コラム

1 徳川家康三方ヶ原戦役画像

▼原史彦

2 「四戦」という徳川のロア

▼黒田智

## ○付録

家康関連作品目録（軍記・軍書・史書・実録・史論・図会・随筆・小説）

▼井上泰至・竹内洪介編

家康関連演劇作品初演年表（人形浄瑠璃・歌舞伎）▼原田真澄編



# 伝統芸能の教科書

藤澤 茜編著

2023  
刊行

ISBN978-4-86766-010-2 C0070  
A5判・並製・カバー装・224頁(仮)  
定価：本体1,900円(税別)



日本の伝統芸能に対して、どのようなイメージを持っていますか？難しそうだから鑑賞するのはハードルが高い—そう感じる人は多いかもしれません。実は、能で使用する能面や歌舞伎の隈取など、基本が少しでも分かると、伝統芸能はぐっと分かりやすく身近なものになります。

本書ではそうした鑑賞のポイントを紹介しつつ、日本の伝統芸能がどのように誕生し継承されてきたか、どのような特色があるのか—初心者にも分かりやすく、かつ重要な部分は掘り下げて紹介します。とりあげるのは、雅楽、能狂言、文楽、歌舞伎、落語・講談、和楽器(尺八・琵琶)、贅女の芸能、茶道です。歴史や特色、代表的な演目などの基礎的な解説に加え、第一線で活躍する演者の目線によるコラムやインタビューも掲載します。

伝統芸能は、その成立した時代や社会を写す鏡のようなものです。現代の私たちが過去の日本文化を知る入り口となり、その伝統を現在まで守り続けてきた日本文化の奥深さにも気づかせてくれる存在です。本書が、劇場や演奏会に足を運びきっかけになり、伝統芸能を身近に感じる一助になるよう願っています。

**【目次】** 1 雅楽 雅楽…三田徳明(雅楽研究会主宰) / コラム 笙の響きの秘密…石川 高(笙演奏家) 2 能狂言 能楽…佐野玄宜(シテ方宝生流) / コラム 世阿弥の能楽論と「花」…亀井

広忠(葛野流大鼓方) / 狂言…石田幸雄(能楽師) / コラム 古典ではない、最も新しい演劇…石田幸雄(能楽師) 3 文楽 文楽…森谷裕美子(学習院大学非常勤講師) / コラム 演目の比較—「忠臣蔵」を例に…藤澤 茜 / コラム 太夫と三味線…豊竹睦太夫(文楽太夫)・鶴澤友之助(文楽三味線方) / インタビュー 人形遣いの道…吉田勘市(文楽人形遣い) / コラム 人形の首・鬘・衣裳…村尾愉・高橋晃子・米田真由美(国立文楽劇場) / 文楽の首の種類…藤澤 茜 4 歌舞伎 歌舞伎…藤澤 茜 / コラム 歌舞伎音楽の伝承…田中傳左衛門(歌舞伎囃子方) / コラム 歌舞伎の「型」と演技…今井豊茂(歌舞伎脚本家) / インタビュー 「心」を受け継ぐ歌舞伎…中村鷹之資(歌舞伎役者) / コラム 明治以降の芸能・演劇…赤井紀美(早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助教) / コラム 己を信じてやり遂げる…藤間勘十郎(日本舞踊家) 5 落語・講談 落語…藤澤 茜 / コラム 想像力を働かせる—落語の楽しみ方…柳家喬之助(落語家) / 講談…藤澤 茜 / コラム 講談を読む…神田阿久鯉(講談師) 6 和楽器(尺八・琵琶) 尺八…小濱明人(尺八演奏家) / コラム 正月の門付け—一年の繁栄をこぼす…藤澤 茜 / 琵琶…後藤幸浩(琵琶奏者) / コラム 筑前琵琶と肥後琵琶…片山旭星(琵琶奏者) / コラム 戦争によって成長した近代琵琶楽…水島結子(琵琶演奏家) / コラム 石田琵琶店 取材レポート…藤澤 茜 7 贅女の芸能 贅女の芸能…月岡祐紀子(民謡歌手) / コラム コミュニケーションとしての茶の湯…千 宗屋(茶人)

## 付録

特別寄稿 伝統芸能—海外との共通性と日本の独自性…諏訪春雄(学習院大学名誉教授) / 特別寄稿 「日本の伝統芸能」の未来に向けて…鈴木健一(学習院大学教授) / 主要参考文献…藤澤 茜 主要能楽堂・劇場…藤澤 茜 / あとがき…藤澤 茜 執筆者一覧

# 日本の歴史を突き詰める おおさかの歴史

地方史研究協議会編

ISBN978-4-909658-92-0 C0221  
新書判・並製・272頁  
定価：本体1,500円(税別)

2022  
刊行

日本史ファン、研究者必携のシリーズ5冊目。本書は「おおさか」を取り上げる。あえてひらがなで表わすのは、地域概念としての「おおさか」への関心は全国的であり、時間的な広がりを持つことによる。取り上げるのは、執筆者が持ち寄った地域に残された史料。史料を検討し、そこから見通される歴史認識を再構築していくのが本書の「おおさか史」である。地方史の研究者は、身近に残る資料を手がかりに、どれほど思考を重ね、ときには悪戦苦闘を重ねているものか。刺激に満ちた推理過程は、歴史を理解するとはどういうことか、「おおさか」の歴史を真に知りたいと願う人に、楽しく、間違いのない導きの糸となっていること請け合いです。

**【目次】** 第1部 飽くなき追究！—新しい歴史学の可能性と方法を求めて 1 飯盛山南尾根・野崎での徳川大坂城の採石—キリシタン大名京極丹後守の遺跡と伝承(長尾 武) / 2 道供養碑はなぜ建てられたのか—大阪・池田に残る石造文化財(室田卓雄) / 3 大阪的美的感性の探求—暁鐘成『摂津名所図会大成』難波橋の鑑賞(小田直寿) / 4 淀川沿いに造られた軍事施設をめぐる謎—文献史的遺構論からみた楠葉台場(馬部隆弘) / 5 霊場・生駒山地の産業と民俗—山地西麓に暮らす人々の営み(俵 和馬) 第2部 史資料が語る！—おおさかの町と人 6 出土瓦からみた戦国期の瓦生産—天王寺瓦工を中心に(岡本 健) / 7 髪結たちの意外な役割—道修町近所講の寄合と町髪結(野高宏之) /

8 水帳が公文書になるとき—帳切・三新法・捨て子(飯田直樹) / 9 外国人居留地に住んでいたのは誰か—川口居留地の区画と居住者たち(堀田暁生) / 10 日本最古の陸軍墓地と日露戦争戦死者葬儀—真田山陸軍墓地・彰忠会・町葬(奥田裕樹) / 11 「人」と地域の物語—五代友厚の娘「久子日記」から(石原佳子)

**第3部 水と街道を注視する！—変化するものと変化しないもの** 12 古代から近代まで続く北摂諸街道の変遷—長尾道と亀岡街道(前田豊邦) / 13 水利環境からみた和泉の地域開発—井堰・溜池・用水路(岸本直文) / 14 中世淀川を行き交った人とモノ—寺社参詣がもたらした「大阪」の発展(曾我部愛) / 15 山崎通における旅行難民者救済システム—庶民の通行の実態を探る(高橋伸拓) / 16 「喧嘩島」の所有権をめぐる争い—淀川流域の付洲開発(片山早紀) / 17 淀川改良工事と土地収用—一貫収され、移転を迫られた側から考える(藤村尚也)

**第4部 史資料との格闘！—都市大阪周辺地域の史実** 18 運ばれなかった埴輪からわかること—日置荘西町窯跡群と河内大塚山古墳(十河良和) / 19 水をめぐむる村々の争いと扱人—「鎌田水論一件日記」から読み解く(西川哲矢) / 20 神社普請と氏地の人びと—摂州豊島郡池田村『伊居太神社日記』を読む(田中万里子) / 21 旧思想打破の岸和田の女性たちが勝ち取ったもの—雨天運動場・公会堂・婦人館建設運動(山田裕美)



# 石牟礼道子と〈古典〉の水脈

他者の声が響く

野田研一・後藤隆基・山田悠介編

ISBN978-4-86766-008-9 C0095

A5判型・並製・306頁

定価：本体2,800円（税別）

2023  
刊行

不知火海とともに生きた詩人・作家、石牟礼道子（1927～2018）。『苦海浄土』をはじめとする彼女の作品に、浄瑠璃、説経節、近代以前の地誌や紀行文など、広く〈古典〉と呼びうるジャンルやテキストからの影響や引用が認められることはつとに知られている。しかしながら、その実態はいまだ明らかにされていない。石牟礼道子は、〈古典〉をいかに受容し、自らの文学をものしたのか。石牟礼の思想と文学は、〈いま〉を生きる表現者たちにとってどのような影響を与えたのか。日本文学・民俗学・歴史学・演劇学・環境文学を専門とする研究者と、詩・音楽・能楽・染織・演劇に携わる表現者が、その答を探る。論文、エッセイ、インタビューに加え、新作能『不知火』初演時の「演出ノート」も再録！

## 【目次】

はじめに 石牟礼道子の水脈——受容・変奏・応答（山田悠介）

### 第一部 文字と声のあいだ

- 1 石牟礼道子、または浄瑠璃のごときもの（赤坂憲雄）
- 2 天草と水俣をつなぐ異界の語り部——『流民の都』『椿の海の記』を読み直す（小峯和明）
- 3 「祖型」としての景物——『苦海浄土』における風景の構造（野

田研一）

4 記録と虚構のあわいをただよう非人御前——石牟礼道子「詩篇 苦海浄土」とテレビドキュメンタリー『苦海浄土』（後藤隆基）

### 第二部 呼応する表現

- 5 三つの詩型をめぐって（小池昌代）
  - 6 石牟礼道子を歌う（寺尾紗穂）
  - 7 「しゅうりりえんえん」を作曲して（荻久保和明）
  - 8 咲いと敗者の芸能（安田 登）
  - 9 魂の秘花——新作能「沖宮」における言葉と色（志村昌司）
  - 10 声にされることを待っている——演出家がみた石牟礼文学のエッセンス（笠井賢一）
- 付録 『不知火』演出ノート（笠井賢一）

### 第三部 〈古典〉への遊行

- 11 「穴のあいた太鼓」考——石牟礼道子を手がかりに未発の歴史を紡ぐ（北條勝貴）
- 12 『西南役伝説』における民衆史的歴史語りと非定住民の記憶（樋口大祐）
- 13 石牟礼道子と説経節（桑 汐里）
- 14 受容と創出の物語——石牟礼道子『椿の海の記』の〈変身〉譚をめぐって（山田悠介）

おわりに（野田研一）

索引 執筆者プロフィール



# 〈転生〉する川端康成

引用・オマージュの諸相

仁平政人・原善編

ISBN978-4-909658-89-0 C0095

A5判・並製・268頁

定価：本体2,700円（税別）

2022  
刊行

優れた小説家は何度でもよみがえる。本書ではとりわけ後代の作家らによる川端文学の引用・オマージュの世界をたどります。川端の文学がいかに作家たちによって創造的に受容され、創作の源になったか。本書を通じて新たな意味を持つものとして生まれ変わる川端と後代の作家らによる文学作品を読み直します。【目次】Ⅰ 引用・オマージュによる〈転生〉1 オマージュの照らしたすかー総論にかえて（原善）／2 〈転生〉する「伊豆の踊子」—松本清張「天城越え」とトラベルミステリ（藤田祐史）／3 雪と鏡と二人の女—『雪国』と『死の島』を結ぶフィクションの文法（西岡亜紀）／4 腕をつけかえること、「どうぶつ」になること—小池昌代「左腕」と川端康成「片腕」（仁平政人）／5 裏返されなかったもの—石田衣良『娼年』と川端康成『眠れる美女』（三浦卓）／6 小説家として生きること—川端康成と小川洋子（高根沢紀子）／7 絵画小説としての『異邦人』—川端康成との関連性に触れて（李雅旬）／8 スパイより愛を込めて—「最高の任務」と川端文学（平井裕香）／9 『眠れる美女』以後のガルシア＝マルケス—紡がれる文学の糸（見田悠子）／10 〈引用〉による共振—朱天心『古都』と川端文学（坂元さおり）／11 毒を盛られたオマージュ—李昂の『眠れる美男』を読む（李哲権）Ⅱ 現代作家と川端康成の〈対話〉12 極悪について（小池昌代）／13 川端康成と立原正秋と「通」（小谷野敦）／14 単なる比喩でないような空虚（乗代雄介）Ⅲ 作家の〈交流〉／作品の〈変異〉15 「生涯一片山水」の覚悟／「夢幻の如くなり」—中里恒子における川端康成、

或いは川端文学（深澤晴美）／16 川端を語りつづけた寂聴の京—冬の虹がむすぶもの（大石征也）／17 〈記憶〉の揺らぎをいかに描くか—大庭みな子と川端康成（高畑早希）／18 〈抒情〉を更新する—清水義範の「パステーション」について（東雲かやの）／19 「雪国の踊子」の踊りっぷり—荻野アンナの川端理解の卓抜き（菅野陽太郎）／20 焼き直された〈駒子〉たち—西村京太郎『「雪国」殺人事件』（熊澤真沙歩）／21 『新・雪国』の新しさ—笹倉明の「パステーション」（奥山文幸）／22 テキストの中の遊歩者—川端康成と多和田葉子（谷口幸代）／23 エスニック歌の響き—吉本ばなな「ちんぬくじゅうしい」（崔順愛）／24 「そんな街や、そんな時代があった」—祐光正『浅草色つき不良少年団』（高橋真理）／25 「雪国」の〈世界〉を四字熟語で飛翔する—「わたくし率イン 歯一、または世界」（杉井和子）／26 〈男〉を知らぬ片腕、あるいは〈女〉のすみずみまでを知る片腕—花房観音「片腕の恋人」（青木言葉）／27 悪夢という異界—綿矢りさ「手のひらの京」の連想（永栄啓伸）／28 片腕との〈暮らし〉—彩瀬まる「くちなし」が描く愛執の辺境（長谷川徹）／29 飛翔する〈言葉〉—川端康成と田中慎弥（内田裕太）／30 川端康成文学の振興に力を尽くした井上靖—鬱然たる大樹を仰ぐ（劉東波）／31 〈短篇の名手〉を保証する存在—書簡と川端康成文学賞にみる三浦文学の礎（原田桂）／32 「まごついてしまうほど異国的」？—川端康成を読むカズオ・イシグロ（田尻芳樹）／33 「秋田犬」と「白い犬」—莫言が読んだ『雪国』について（李聖傑）／34 韓国現代作家は川端をどう読むか—川端康成と金衍洙文学における表現論の考察（姜惠彬）

川端康成〈転生〉作品年表【引用・オマージュ編】（恒川茂樹）



# 学芸員の観察日記

ミュージアムのうらがわ

滝登くらげ

ISBN978-4-909658-93-7 C0070

A5判・並製・176頁

定価：本体1,600円（税別）

2023  
刊行



山奥博物館で働く仲間たちは今日もお仕事に奮闘中！  
ここはさまざまな役割を持った人が、日々働く、わりと大きな規模の公立博物館。展示をつくったり、モノをあつめて、しらべて、整理したり... そんな学芸員たちは、どんな生き物なのか!? 学芸員ならではの悲喜こもごもをほのぼのとしたトーンで描く四コマまんが。博物館の格好なお仕事案内であると同時に、学芸員になりたい人のための本。書き下ろしで、学芸員の仕事がかかるコラム各種、四コマ「【外伝】学芸員の就活日記」なども収録しました。SNSで連載中。待望の書籍化です！

**【目次】1 学芸員という生き物** 写真撮影／写真撮影②／歓迎会／巻き段／書は人を表す？／誤解①／誤解②／誤解③／誤解④／衝突／雑芸員／職業病①／職業病②／不審者①／不審者②／ファッション／月曜日／博物館実習／恋バナ①／とっさ／音読み／グッズ／季節の挨拶／若手／同期

**COLUMN ミュージアムの裏側で** ミュージアム？ 博物館？／博物館と「もの」  
**2 展示をつくる！** 抜き身／アウト／雨女／車酔い／アタリ／攻防①／攻防②／攻防③／攻防④／色校／色校②／色校③／色校④／納品／複雑な心境／この人／目／1件／誤字／リハーサル／記念／きゅうかんび／いつものこと／業務日報／

アンケート／ポリューム／新出資料／作品返却 **COLUMN** 展示ができるまでのスケジュール 3 あつめる、しらべる、整理する 礼儀作法／掃除／境界領域／薄葉紙／怖い話①／寄贈／恋バナ②／作品購入／役得／箱／真の姿／真行草／スナップ写真／見ごろ／単眼鏡／蔵書／判型／豪華版／とある一日①／とある一日②／似ている／貝塚／作品名①／画題／作品名②／員数／作品名③ **COLUMN** どこから来て、何をしているのか 展示品はどこからやってくるのか／購入品／寄贈品／寄託品／「もの」に「情報」を与える **4 まもって、のこす** 揺れ／消火設備／虫①／虫②／落とし物／温湿度計／60日ルール／照度計／お土産／ギャップ／安全第一／ティッシュ／怖い話②／物騒な話／タケノコ／誤解⑤／二重シャッター／エレベーター **COLUMN** 保存のこと、新井さんに聞いてみよう 博物館のお約束／展示室が暗くて見にくい！／展示室が寒い！ 暑い！／展示室で飲んだり食べたりできたらいいのに。／「未来に伝える」ために **5 伝える、一緒に考える** よくある質問①／よくある質問②／よくある質問③／よくある質問④／よくある質問⑤／音声ガイド①／音声ガイド②／音声ガイド③／職人技／コラボ／展示される／ワークシート／成長／チラシ／昔の人 **COLUMN** すべての人のために バラバラな興味や関心に答える／教育普及のお仕事 **6 ウィズ・マスク** 臨時休館／臨時休館延長中／ソーシャル・ディスタンス／マスク／立候補／ハカセ／おうち時間 **COLUMN** 博物館は何のためにある？ 感染症の流行、そのとき博物館は／博物館が人間に与える影響 **【外伝】学芸員の就活日記** 学芸員資格／専攻／博物館実習／就活情報サイト／求職活動／大学院／チリン／発表準備／学会発表／論文投稿／就職試験／におい／質問／なんでもや①／なんでもや②／オオサンショウウオ①／オオサンショウウオ②／辞令交付／就職 **COLUMN** 学芸員になりたい 運とタイミング／学芸員の雇われかた **おすすめの本～博物館のお仕事いろいろ～**

# REKIHAKU 特集・アートがひらく地域文化

国立歴史民俗博物館・川村清志・天野真志編

ISBN978-4-909658-96-8 C0021

A5変判・並製・112頁・フルカラー

定価：本体1,091円（税別）

発行 国立歴史民俗博物館

発売・編集協力 文学通信

2023  
刊行

国立歴史民俗博物館発！ 歴史と文化への好奇心をひらく『REKIHAKU』！いまという時代を生きるのに必要な、最先端でもしる歴史と文化に関する研究の成果をわかりやすく伝えます。第8号の特集は「アートがひらく地域文化」。慢性的な過疎化や高齢化と震災や水害などで、限界を迎えつつある地域共同体。いまこのただなかで、新たな社会を模索する芸術祭の試みが行われつつある。アートという新たな文化資源の生成は、そこでの文化の担い手に何を要請するのか。アート作品を生み出す根源的なイマジネーションは、時に、ローカルな文化の秘められた側面を露わにしたりもする。フィールドワークの営みと交差する、ローカルな文化を攪乱するかに見えるアートの諸実践は、地域文化の何をひらいていくのだろうか。これからの地域文化のための必携書。特集執筆は、北川フラム／川村清志／南条嘉毅／川邊咲子／大川友希／長江健太／是恒さくら／八谷麻衣／マユンキキ／内田順子。特集以外の記事も、好評連載・鷹取ゆう「ようこそ！ サクラ歴史民俗博物館」、石出奈々子のれきはく！探検ほか、盛りだくさんで歴史と文化への好奇心をひらいていきます。

歴史や文化に興味のある人はもちろん、そうではなかった人にもささる本。それが『REKIHAKU』です。年3回刊行！

**【目次】**

- 特集鼎談 アートと地域の文化をつなぐということ  
——芸術祭と地域の歴史・文化のこれから（北川フラム・川村清志・南条嘉毅）
- 1 民具にまつわるストーリーと新たな価値  
民具の「緩やかな保存」——奥能登国際芸術祭「珠洲の大蔵ざらえ」（川邊咲子）
  - 2 民具はどう作品になっていったのか●COLUMN  
お祭りと《待ち合わせの森》（大川友希）
  - 3 険しく終わりのない珠洲の営み●COLUMN  
珠洲への移住とアート×地域社会の関係性（長江健太）
  - 4 世界を眼差す視点の豊かさをもたらすアーティストの仕事  
回遊する眼——海と陸、鯨と人間の物語を紡ぐ（是恒さくら）
  - 5 作品を作らなくてもいい世界を望むということ  
私が「わたし」として表現すること（八谷麻衣／マユンキキ）
  - 6 構造化されたフレームを意識する手がかり●COLUMN  
「アイヌアート」の展示（内田順子）



# その他の刊行図書 2023.05 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

	刊行年	ISBN	本体価格
<b>東アジア文化講座・全4冊 [完結]</b>			
はじめに交流ありき—東アジアの文化と異文化交流●染谷智幸編	2021年2月	978-4-909658-44-9	2800円
漢字を使った文化はどう広がっていたのか—東アジアの漢字漢文文化圏●金文京編	2021年2月	978-4-909658-45-6	2800円
東アジアに共有される文学世界—東アジアの文学圏●小峯和明編	2021年2月	978-4-909658-46-3	2800円
東アジアの自然観—東アジアの環境と風俗●ハルオ・シラネ編	2021年2月	978-4-909658-47-0	2800円
<b>デジタル・ヒューマニティーズ関連書</b>			
歴史情報学の教科書—歴史のデータが世界をひらく●後藤 真・橋本雄太編	2019年4月	978-4-909658-12-8	1900円
ネット文化資源の読み方・作り方—図書館・自治体・研究者必携ガイド●岡田一祐	2019年7月	978-4-909658-14-2	2400円
デジタル学術空間の作り方—仏教学から提起する次世代人文学のモデル●下田正弘・永崎研宣編	2019年12月	978-4-909658-19-7	2800円
欧米圏デジタル・ヒューマニティーズの基礎知識●一般財団法人人文情報学研究所監修	2021年7月	978-4-909658-58-6	2800円
人文学のためのテキストデータ構築入門●一般財団法人人文情報学研究所監修	2022年8月	978-4-909658-84-5	3000円
<b>国語教育関連書</b>			
なぜ古典を勉強するのか—近代を古典で読み解くために●前田雅之	2018年6月	978-4-909658-00-5	3200円
国語の授業の作り方—はじめての授業マニュアル●古田尚行	2018年7月	978-4-909658-01-2	2700円
古典は本当に必要なのか、否定論者と議論して本気で考えてみた。—●勝又基編	2019年9月	978-4-909658-16-6	1800円
古典教育と古典文学研究を架橋する—国語科教員の古文教材化の手順●井浪真吾	2020年3月	978-4-909658-26-5	2700円
高校に古典は本当に必要なのか—高校生が高校生のために考えたシンポジウムのまとめ●長谷川凜ほか	2021年5月	978-4-909658-36-4	1800円
古典教育をオーバーホールする—国語教育史研究と教材研究の視点から●菊野雅之	2022年9月	978-4-909658-87-6	2700円
文学授業のカンドコロ●助川幸逸郎・幸坂健太郎・岡田真範・難波 博孝・山中勇夫	2022年7月	978-4-909658-80-7	1900円
<b>文学・歴史・美術・思想</b>			
三島由紀夫は—〇代をどう生きたか—あの結末をもたらしたものに●西法太郎	2018年11月	978-4-909658-02-9	3200円
全訳 男色大鑑〈武士編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2018年12月	978-4-909658-03-6	1800円
全訳 男色大鑑〈歌舞伎若衆編〉●染谷智幸・畑中千晶編	2019年10月	978-4-909658-04-3	1800円
紙が語る幕末出版史—『開版指針』から解き明かす●白戸 満喜子・	2018年12月	978-4-909658-05-0	9500円
二代目市川團十郎の日記にみる享保期江戸歌舞伎●ビュールク トーヴェ	2019年2月	978-4-909658-09-8	6000円
江戸の子どもの絵本—三〇〇年前の読書世界にタイムトラベル!●叢の会編	2019年4月	978-4-909658-10-4	1000円
〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典●長島弘明編	2019年5月	978-4-909658-13-5	3200円
真山青果とは何者か?●飯倉洋一・日置貴之ほか編	2019年7月	978-4-909658-15-9	2800円
注釈・考証・読解の方法—国語国文学的思考●白石良夫	2019年11月	978-4-909658-17-3	3200円
草の根歴史学の未来をどう作るか—これからの地域史研究のために●黒田智・吉岡由哲編	2020年1月	978-4-909658-18-0	2700円
薩琉軍記論—架空の琉球侵略物語はなぜ必要とされたのか●目黒将史	2019年12月	978-4-909658-20-3	15000円
怪異をつくる—日本近世怪異文化史●木場貴俊	2020年3月	978-4-909658-22-7	2800円
江戸初期の香文化—香がつなぐ文化ネットワーク●堀口悟・鈴木健夫・村田真知子編	2020年2月	978-4-909658-23-4	4500円
近世前期江戸出版文化史●速水香織	2020年2月	978-4-909658-24-1	8800円
江戸中期上方歌舞伎囃子方と音楽●前島美保	2020年2月	978-4-909658-25-8	12000円
「国文学」の批判的考察—江戸のテキストから古典を考え直す●空井伸一	2020年3月	978-4-909658-27-2	11500円

# その他の刊行図書 2023.05 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

好古趣味の歴史—江戸東京からたどる ●小林ふみ子・中丸宣明編著	2020年6月	978-4-909658-29-6	2800円
城壁 ●榛葉英治・和田敦彦	2020年6月	978-4-909658-30-2	2400円
信長徹底解説—ここまでわかった本当の姿 ●堀新・井上泰至編	2020年7月	978-4-909658-31-9	2700円
杞憂に終わる連句入門 ●鈴木千恵子	2020年6月	978-4-909658-32-6	1500円
読書の歴史を問う—書物と読者の近代 改訂増補版 ●和田敦彦	2020年8月	978-4-909658-34-0	1900円
説話文学研究の最前線—説話文学会 55 周年記念・北京特別大会の記録 ●説話文学会編	2020年9月	978-4-909658-35-7	3000円
二十四節気で読みとく漢詩 ●古川末喜	2020年10月	978-4-909658-37-1	2800円
古典の未来学—Projecting Classicism ●荒木浩編	2020年10月	978-4-909658-39-5	8000円
書誌学入門ノベル! 書医あづさの手控〈クロニクル〉 ●白戸満喜子	2020年12月	978-4-909658-41-8	1800円
王朝物語の表現機構—解釈の自動化への抵抗 ●星山 健	2021年1月	978-4-909658-42-5	6000円
近代平仮名体系の成立—明治期読本と平仮名字体意識 ●岡田一祐	2021年2月	978-4-909658-48-7	7000円
虚学のすすめ—基礎学の言い分 ●白石良夫	2021年2月	978-4-909658-49-4	1900円
自由律俳句と詩人の俳句 ●樽見 博	2021年3月	978-4-909658-50-0	2700円
『阿毘達磨集論』の伝承—インドからチベットへ、そして過去から未来へ ●高橋晃一・根本裕史編	2021年3月	978-4-909658-51-7	2400円
これからの古典の伝え方—西鶴『男色大鑑』から考える ●畑中千晶	2021年3月	978-4-909658-53-1	1900円
軍記物語と合戦の心性 ●佐伯真一	2021年4月	978-4-909658-54-8	10000円
言いなりにならない江戸の百姓たち—「幸谷村酒井家文書」から読み解く ●渡辺尚志	2021年6月	978-4-909658-56-2	1500円
玉藻前アンソロジー—殺之巻 ●朝里 樹編著	2021年7月	978-4-909658-59-3	1900円
玉藻前アンソロジー—生之巻 ●朝里 樹編著	2022年10月	978-4-909658-83-8	1900円
『奥の細道』の再構築 ●井口洋	2021年11月	978-4-909658-62-3	11000円
たたかう講談師—二代目松林伯円の幕末・明治 ●目時美穂	2021年11月	978-4-909658-66-1	2500円
読まなければなにもはじまらない—いまから古典を〈読む〉ために ●木越治・丸井貴史編	2021年11月	978-4-909658-67-8	1900円
俳句がよくわかる文法講座 ●井上泰至・堀切克洋編	2022年8月	978-4-909658-79-1	1900円
職業作家の生活と出版環境—日記資料から研究方法を拓く ●和田敦彦編	2022年6月	978-4-909658-82-1	2700円
増補新版 東北の古本屋 ●折付桂子	2022年10月	978-4-909658-88-3	1800円
川瀬巴水探索—無名なる風景の痕跡をさがす ●川瀬巴水とその時代を知る会	2022年11月	978-4-909658-90-6	1900円
人はなぜ神話〈ミュトス〉を語るのか—拡大する世界と〈地〉の物語 ●清川 祥恵・南郷晃子・植朗子編	2022年9月	978-4-909658-85-2	2800円
江戸幕府の誕生—関ヶ原合戦後の国家戦略 ●渡邊大門編	2022年9月	978-4-909658-86-9	1900円
# 卒論修論—口指南 ●田中草大	2022年6月	978-4-909658-78-4	1600円
職業としての大学人 ●紅野謙介	2022年4月	978-4-909658-77-7	1800円
「文壇」は作られた—川端康成と伊藤整からたどる日本近現代文学史 ●尾形大	2022年4月	978-4-909658-74-6	2000円
無数のひとりが紡ぐ歴史—日記文化から近現代日本を照射する ●田中祐介編	2022年3月	978-4-909658-75-3	2800円
思い出のとしまえん ●練馬区立石神井公園ふるさと文化館編 小宮佐知子・内田 弘・小林 克著	2022年5月	978-4-909658-76-0	1900円
日本学の教科書 Handbook for Japanese Studies ●伴野文亮・茂木謙之介編	2022年4月	978-4-909658-73-9	1800円
未墾地に入植した満蒙開拓団長の記録—堀忠雄『五福堂開拓団十年記』を読む ●黒澤 勉・小松靖彦編	2022年3月	978-4-909658-71-5	2400円
地域歴史文化継承ガイドブック—付・全国資料ネット総覧 ●天野真志・後藤 真編	2022年3月	978-4-909658-72-2	1600円
Butoh 入門 肉体を翻訳する ●大野口ベルト・相原朋枝編	2021年12月	978-4-909658-68-5	2200円

# その他の刊行図書 2023.05 現在

それぞれの本の詳細は文学通信サイト [<https://bungaku-report.com/>]、もしくは検索してご覧下さい

日本史史料研究会ブックス			
新徴組の真実にせまる―最後の組士が証言する清河八郎・浪士組・新選組・新徴組●西脇 康	2018年12月	978-4-909658-06-7	1300円
新 神風と悪党の世紀―神国日本の舞台裏●海津 一朗	2019年1月	978-4-909658-07-4	1200円
六波羅探題 研究の軌跡―研究史ハンドブック●久保田和彦	2020年1月	978-4-909658-21-0	1200円
ここまでわかった戦国時代の天皇と公家衆たち―天皇制度は存亡の危機だったのか？新装版●神田裕理編	2020年7月	978-4-909658-33-3	1350円
戦国時代と一向一揆●竹間芳明	2021年6月	978-4-909658-55-5	1600円
幕末大江戸のおまわりさん―史料が語る新徴組●西脇 康	2021年10月	978-4-909658-65-4	1500円
論考 日本中世史―武士たちの行動・武士たちの思想●細川重男	2022年3月	978-4-909658-70-8	1800円
REKIHAKU・国立歴史民俗博物館発行			
REKIHAKU 特集・されど歴史●山田慎也・内田順子・橋本雄太編	2020年10月	978-4-909658-38-8	1091円
REKIHAKU 特集・いまこそ、東アジア交流史●高田貫太・橋本雄太編	2021年2月	978-4-909658-43-2	1091円
REKIHAKU 特集・日記がひらく歴史のトビラ●三上喜孝・内田順子編	2021年6月	978-4-909658-57-9	1091円
REKIHAKU 特集・歴史のなかの疫病●福岡万里子・高田貫太編	2021年10月	978-4-909658-63-0	1091円
REKIHAKU 特集・ファッション×博物館●澤田和人編・吉村郊子編	2022年2月	978-4-909658-69-2	1091円
REKIHAKU 特集・人工知能の現代史●橋本雄太・澤田和人編	2022年6月	978-4-909658-81-4	1091円
REKIHAKU 特集・歴史の「匂い」●小倉慈司・高田貫太編	2022年10月	978-4-909658-91-3	1091円
地方史はおもしろい・地方史研究協議会編			
日本の歴史を解きほぐす―地域資料からの探求●地方史研究協議会編	2020年4月	978-4-909658-28-9	1500円
日本の歴史を原点から探る―地域資料との出会い●地方史研究協議会編	2020年10月	978-4-909658-40-1	1500円
日本の歴史を問いかける―山形県〈庄内〉からの挑戦●地方史研究協議会編	2021年3月	978-4-909658-52-4	1500円
日本の歴史を描き直す―信越地域の歴史像●地方史研究協議会編	2021年9月	978-4-909658-61-6	1500円
その他			
中華オタク用語辞典●はちこ	2019年3月	978-4-909658-08-1	1800円
【呉公藻・馬岳梁版】太極拳講義●沈 剛・日高崇編著	2021年8月	978-4-909658-60-9	1300円
波多野華涯書簡集―門人濱口梧洞との往復書簡●岩田秀行・小田切マリ [私家版]	2019年3月	978-4-909658-11-1	品切れ